

平成 24 年度言語研修
ビルマ語中級研修テキスト1

文語ビルマ語文法[改訂版]

Grammar of Literary Burmese [Revised Version]

澤田 英夫 著

東京外国語大学
アジア・アフリカ言語文化研究所

2012



まえがき

本テキストは、2012年度東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所（AA研）言語研修「ビルマ語中級」で使用するための文法テキストである。この研修は口語ビルマ語の基礎をひとつお習得した受講者を対象に、文語ビルマ語を読みこなす力の基礎を身につけてもらうことを主な目的としている。

本研究所が「ビルマ語中級」の言語研修を実施するのは実は2度目であり、前回は2004年度に、根本敬所員（現上智大学教授）と澤田が共同で行った。本テキストは、2004年度研修の際に作成した文法テキストを改訂したものである。2004年当時のみならず現在でも、口語体との違いを意識しつつ文語体をメインにしたビルマ語文法書は他に例を見ないものであると自負している。

ビルマ語の特徴の一つとして、特に文法機能を担う機能語（各種小辞や指示表現など）において口語体と文語体の差異が大きいことが挙げられる。両者を一度に学習することは混乱を招くため、初学者は口語体ビルマ語の学習から入るのが常であるが、その知識だけでは、書籍・雑誌・新聞の大部分を占める文語体で書かれたテキストを十分に読みこなすことはできない。本テキストでは第1課から第7課までを「書き換え編」とし、口語体－文語体間の機能語の対応関係を図示し、口語体で書かれた文を文語体へ書き換える練習を通じて機能語の対応関係を習得することに充てた。第7課を終えた段階で、文語体テキストを読み進めるために最低限必要な機能語の知識が身につくはずである。

第8課以降は「解説編」として、特に文語体で多用される複文構造を作り出すための機能語の解説と、節の述語となる動詞の内部構造を中心とした文法事項の解説を行い、例文の和訳を通じてビルマ語文法の知識を深めることを目指すものとした。

付録として、文法に直接かわりないが、テキストの読解ないしは音読に必要な知識をまとめた。これらは2004年度研修の別刷資料として配布したものである。また、巻末には索引を付して、検索の便宜を図った。

研修のネイティブ講師である、本学大学院総合国際学研究所博士前期課程在学中のトゥザライン ဘုရားခင်さんには、テキスト中のビルマ語全てを再チェックしていただいた。また、ビルマ文字を含む本テキストの組版には、本研究所の高島淳教授が開発した **Burmese TeX** を使用した。本テキストの前身である2004年度研修文法テキストの作成に多大な協力をいただいた本学非常勤講師のインインメイ ဝဉ်းဝဉ်းမေさんも含め、協力下さったこれらの方々に、心より感謝申し上げたい。

2012年7月9日

澤田 英夫

目次

まえがき	1
導入	5
書き換え編	9
第1課 最小の文	9
第2課 格の形式	13
第3課 指示名詞・疑問語句	16
第4課 名詞句の要素(1)	19
第5課 名詞句の要素(2)	22
第6課 複文を作るしくみ	25
第7課 その他の書き換えを要する要素	29
解説編	33
第8課 従属節	33
第9課 従属節(続き)	35
第10課 従属節もどき	38
第11課 従属節もどき(続き)	40
第12課 動詞からの派生名詞	43
第13課 動詞を含む複合名詞・複合名詞句	46
第14課 動詞を含む複合名詞・複合名詞句(続き)	49
第15課 格名詞	51
第16課 格名詞(続き)	54
第17課 動詞 GS -について	56
第18課 動詞の構造(1) — 文法的な複合動詞	59
第19課 動詞の構造(2) — 動詞の連続	61
第20課 動詞の構造(3) — 動詞を補助する小辞	65
第21課 文脈中での働きを表す小辞	70
第22課 文末の表現	73

第 23 課	文末の表現 (続き)	76
付 録		78
付録 A	辞書の配列 (及びビルマ語 → ○○語辞書紹介)	78
付録 B	アーリア系借用語の綴字	84
付録 C	文字・記号の名称	91
索 引		93

導入

ビルマ語における「文法」

作業：各行各列の見出しに書かれた音節の組み合わせが意味をなすものに○を，意味をなさないものに×を，つけなさい。

	-က	-ကို	-တယ်	-နဲ့	-ပါ	မ-ဘူး	-မှာ	-ရင်	အ-	-အောင်
ကောင်း										
ကြီး										
ခွေး										
စား										
ဆေး										
ပြော										
ရေ										
သွား										
တင်း										
အိမ်										

- ビルマ語では，文法的な機能を表す要素（小辞・接辞）は，具体的な意味内容を表す語の後につくことが多い。
- 具体的な意味内容を表す語は，どのような小辞と共起するかによって，大きく名詞類と動詞類の2つに分類される。
- 名詞も動詞も，それを補足したり修飾したりする句要素を取ることができる。これらの句要素は主名詞・主動詞に先行する。
- 小辞は，どのような要素につき，どのような種類の機能を付け加えるかによって分類される。

ビルマ語の文法を学習するということは，種々の文法的機能がどのような手段によって表され，その手段にどのような制約がかかっているかを学習することであると言ってよい。

「口語体」と「文語体」

- a. ရထားနဲ့ မန္တလေးကို သွားမယ်။
 b. ရထားဖြင့် မန္တလေးသို့ သွားမည်။

a. の一部分を，対応する b. の形式で置き換えることはできない。

- × ရထားနဲ့ မန္တလေးသို့ သွားမယ်။
 × ရထားဖြင့် မန္တလေးကို သွားမည်။

- a. 典型的に音声伝達において用いられる言語の体系（口語体）
 b. 典型的に書記伝達において用いられる言語の体系（文語体）

- より正確に言うと，「前もって用意された原稿の有無」が，2つの体系を使い分ける基準となる。
- 口語体と文語体の形式は，上で見たように常に1対1対応しているわけではない。
- 口語体と文語体は，単一話者の頭の中に共存している。だから，時に混じることもある。（だからといって，上で×を付けたような混じり方は普通しない。）
- ビルマ語は900年に及ぶ文献の歴史を持つ。過去の積み重ねによって今に至る文語体は，だから口語体と比較すると「より均質でない」。

書き換え編

第1課 最小の文

動詞文の平叙文

最小の動詞文は、動詞と、その後続く「文を作る小辞」からなる。

・肯定：現実

口語体	文語体
V-တယ်	— V-သည်၊V-၏

- これらの小辞によって作られる文は、(口語体・文語体とも) 以下に示すような時間的解釈を持つ。

1. 現在の出来事：状態を表す動詞と共に

状態動詞の例 ကြီးသည်၊ ကောင်းသည်၊ ကြိုက်သည်၊ ပျော်သည်၊ ရှိသည်၊
နေသည်

2. 過去の出来事：状態を表す動詞だけでなく、動作や変化などを表す動詞とも

動態動詞の例 စားသည်၊ ပေးသည်၊ သွားသည်၊ အိပ်သည်၊ ကျသည်၊ သေသည်

3. 現在の習慣，不変の出来事

※ -၏ は西暦 12c 初頭に刻まれた最古の碑文 (ရာဇကုမာရ်ကျောက်စာ ラージャクマール碑文，ミヤゼーディー碑文とも) にまでさかのぼる「由緒正しい」形である。(一方，独立文末の-သည်が一般化するのはおそらく 17c 以降のことである。) そのためか，-၏の方がより改まった，重々しい(ときに格好つけた?) 語調を持つ。

・肯定：非現実

口語体	文語体
V-မယ်	— V-မည်၊V-အံ့

1. 未来の出来事

2. 話し手がこれから行うつमりの出来事

3. 推量・想像された出来事

※ -အံ့ も-၏と同様，「由緒正しい」形である。一方-မည်の初出は 15c 頃と思われる。

・否定

ビルマ語で否定を表すのは、動詞につく前接辞 မ-である。

口語体	文語体
မV-ဘူး	မV-∅

- -∅ は、肯定の-သည်や-မည်に対応する位置に何も小辞が現れないことを表す。
- 実際には、「動詞で文が終わるとおさまりが悪い」という意識からか、-ဝါ<丁寧>や-ဝေါ -ချေなどの語調を表す小辞が後続することが多い。特に発話の終わりに顕著である。
- 否定の平叙文には、-သည်と-မည်の間の区別に当たるものは存在しない。မV-∅は、現在／過去／未来；1回の出来事／習慣・不変の出来事；現実／推量・想像いずれの否定も表す。

「名詞文」の平叙文

・肯定

口語体	文語体
N	— N-တည်း
(N ဖြစ်တယ်)	— N ဖြစ်သည်၊ N ဖြစ်၏

- 文語体では、述語名詞を動詞 ဖြစ်-「である」（もともとは「生じる，になる」）で受けるのが普通である。
- 対して口語体では、ဖြစ်-を使わない、まさしく「名詞文」の形を取るのが普通である。ただ、後に-ဝါ「丁寧」など語調を表す小辞が後続することが多い。

※ N-တည်းは最古の碑文にまで遡れる古い形式である。

・否定

口語体	文語体
N မဟုတ်ဘူး	— N မဟုတ်-∅

- 否定の前接辞 မ-は動詞にしかつかないから、名詞文を否定にしようとするれば、動詞 ဟုတ်-「そうである」を用いた動詞文の形を取るしかない。ဖြစ်-は用いられない。

諾否疑問文（肯定・否定いずれかの答えを要求する疑問文）

・肯定：動詞文

口語体	文語体
V-သလား	V-သလော၊ V-၏လော
V-မလား	V-မည်လော၊ V-အံ့လော
	V-မည်လား

- 疑問を表す小辞-လား၊ -လောが後続すると，-သည်は口語体の-တယ်同様，弱化して-သになる．-၏と-မည်は弱化しない．

※ -လောは12c以来の形式．それに比べて口語体と共用の-လားはずっと新しい形式．

・肯定：「名詞文」

口語体	文語体
N-လား	N-လော၊ N-လား
(N ဖြစ်သလား)	N ဖြစ်သလော၊ N ဖြစ်၏လော၊ N ဖြစ်သလား

・否定：動詞文

口語体	文語体
မV-ဘူးလား	မV-သလော
	မV-(သ)လား

- 名詞文の否定も，動詞文の場合に準じる．

命令文

・肯定

口語体	文語体
V-∅	V-∅

- 否定の平叙文との違いは，否定の前接辞မ-の有無だけである．
- 否定の平叙文と同様の理由で，語調を表す小辞が後続することが多い．（ぶしつけない印象を与えるのを避ける，という理由もあるかもしれない．）

・否定

口語体	文語体
မV-နဲ့	မV-နဲ့

動詞文のまとめ

	肯定	否定
情報授受文 (情報のやりとりにかかわる ; 平叙文・疑問文など)	現実 : V-သ(ည်)ါ-၏ 非現実 : V-မည်ါ-အံ့	မV-∅
願望表明文 (話し手の願望を表す ; 命令文など)	V-∅	မV-နဲ့

練習問題

次の口語文を解釈し，文語文に書き換えなさい。

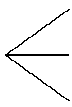
- (၁) ပြောတယ်။
- (၂) ရေးမယ်။
- (၃) ဗိုက် ဆာသလား။
- (၄) ဗိုက် ဆာပါတယ်။
- (၅) လာမလား။
- (၆) မလာဘူး။
- (၇) ကော်ဖီလား။
- (၈) ကော်ဖီ မဟုတ်ဘူး။
- (၉) လက်ဖက်ရည်ပါ။
- (၁၀) နားထောင်ပါ။
- (၁၁) မကြည့်နဲ့။
- (၁၂) အဘိဓာန် မဟုတ်ဘူးလား။
- (၁၃) မရဘူးလား။
- (၁၄) မရပါဘူး။
- (၁၅) ဂျပန်လူမျိုး ဖြစ်ပါသလား။
- (၁၆) ဂျပန်လူမျိုး မဟုတ်ပါဘူး။
- (၁၇) ဗမာလူမျိုး ဖြစ်ပါတယ်။
- (၁၈) မမေ့ပါနဲ့။

第2課 格の形式

ここでの「格」とは、「動詞を補足したり名詞を修飾したりする名詞句要素が、その動詞・名詞に対して担う意味的・文法的な関係」という程度のおおざっぱな意味に受け取ってほしい。なお、以下では動詞を補足する名詞句要素のことを補語と呼ぶことにする。


「格」を表すビルマ語の形式には、小辞と、特殊な名詞がある。本課では、動詞に対する格を表す小辞（格小辞）に限定して学習し、格を表す名詞（格名詞）については第15・16課で扱う。

対象と着点の補語


口語体		文語体	
N-∅	—	N-∅	対象（無生）
N-ကို		N-ကို	対象
		N-အား	受け手・対象（有生）
		N-သို့	移動の着点

- -အားは典型的に有生の名詞に付く。主として、受け渡し行為の「受け手」を表すのに用いるが、「対象」を表す場合に用いることもある。
- -သို့は「場所」の名詞に付く。
- 無生の対象は、しばしば格の小辞を伴わない。

位置の補語

口語体		文語体	
N-မှာ		N-၌	空間上の位置づけ（位置を点のように捉える）
		N-တွင်	空間上の位置づけ（位置を広がりのある領域として捉える）

- 両者の違いはあくまでも位置の捉え方の違いであり、-တွင်が-၌よりも空間上の広い範囲を必ず表すわけではない。
- -တွင်は存在を表す動詞と共に用いられるのが主である。cf. အတွင်း: 「中」

口語体		文語体	
N-မှာ		N-၌	時間軸上の1点への位置づけ
		N-တွင်	時間軸上のある区間内への位置づけ

起点の補語

口語体		文語体	
N-၇	<	N-၇	起点
		N-၇	過去の時
人間 N-ဆိ၇	—	人間 N-ထံ၇	主語でない提供者

- -၇ は、移動の起点、期間の開始点のいずれも表す。
- -၇ は口語体・文語体いずれにおいても、過去の時を表すのに用いるが、過去の時を表す場合に必ず-၇ を用いなければならないわけでもない (-၇^၇ や-၇^၇でも構わない)。
- -ထံ 「…のところ」は、着点や位置の格小辞と共に用いた場合には文字どおりの意味にしか取れないが、起点の格小辞と共に用いた場合だけは、文字どおりの意味に加えて、主語でない提供者「…から」の意味も表す。

共同者・道具の補語

口語体		文語体	
N-နံ	<	N-နံ	共同者・道具
		N-၇	道具・原因

- 道具は典型的に-၇^၇によって表されるが、-နံ^၇でも表せる。
- -နံ^၇は名詞句などを等位接続する小辞としても用いられる。

主語

口語体		文語体	
N-၇	—	N-၇	
N-၇	—	N-သည့်	
N-၇	—	N-၇	動作者・取り立て
—		N-၇	前の文の主語との対比（位置の格小辞からの転用）

- 口語では-၇ が一般的な形式だが、文語では-သည့်が一般的。
- -၇ は主語が動作者であるという含みを表す際や、取り立ての意味を表す際に用いられる。
- -၇ は主語が前の文の主語と対比されるという含みを表す際に用いる。

練習問題

次の口語文を解釈し、文語文に書き換えなさい。

- (၁) ကော်မီတီ ဖွဲ့စည်းတယ်။
- (၂) ဈေးမှာ မဝယ်နဲ့။
- (၃) ဥပဒေနဲ့ ပတ်သက်တယ်။
- (၄) နိုင်ငံတော်ကို ဦး ဆောင်တယ်။
- (၅) မောင်မောင့်ဆီက စာ ရသလား။
- (၆) စာတိုက်ကို သွားမယ်။
- (၇) ဓားပြကို ဖမ်းဆီးပါ။
- (၈) နိုင်ငံတော်မှာ တာဝန် ရှိတယ်။
- (၉) တာဝန်က ရုပ်သိမ်းသလား။
- (၁၀) ကျောင်းသားတစ်ယောက်ကို လမ်းညွှန်တယ်။
- (၁၁) ကောင်စီနဲ့ ညှိနှိုင်းပါ။
- (၁၂) အဖွဲ့အစည်းထဲမှာ ပါဝင်တယ်။
- (၁၃) လွှတ်တော်ကို စာရင်း တင်သွင်းမယ်။
- (၁၄) မိဘက မွေးဖွားလာတယ်။
- (၁၅) လက်နဲ့ ထမင်း စားမလား။
- (၁၆) နောင်ဘဝမှာ ချမ်းသာမယ်။
- (၁၇) စာချုပ် ချုပ်ဆိုတယ်။
- (၁၈) ဝန်ကြီးကို အကြံဉာဏ် မပေးဘူး။
- (၁၉) အဖွဲ့ဝင်ထဲက တစ်ယောက် ရွေးချယ်တယ်။
- (၂၀) စနေနေ့မှာ အစည်းအဝေးကို ကျင်းပမယ်။

第3課 指示名詞・疑問語句

指示名詞

・遠称

口語体		文語体	
ဟို	—	ထိုနေရာ	場所「あそこ，そこ」
ဟိုဟာ	—	ထိုအရာ	もの「あれ」
ဟိုလူ	—	ထိုသူ	人「あの人」

- 口語体では指示名詞一語で場所を表すことができるが，文語体ではできない。
- 人を表す指示名詞には သူ が用いられる。

・近称

口語体		文語体	
ဒီ	—	ဤနေရာ	場所「ここ」
ဒီဟာ၊ ဒါ	—	ဤအရာ၊ ဤ	もの「これ」
ဒီလူ	—	ဤသူ	人「この人」

- ဤ が「これ」を表すのは，後に小辞-သည်၊ -ကားを伴う場合だけのようである。

※ ထို၊ ဤ 共に，最古の碑文に遡れる形式である。

・照応（すでに文脈に現れている事柄を指す）

口語体		文語体	
အဲဒီ	—	ယင်းနေရာ၊ ၎င်းနေရာ	場所「そこ」
အဲဒီဟာ၊ အဲဒါ	—	ယင်း၊ ၎င်း	もの「それ」
အဲဒီလူ	—	ယင်းလူ၊ ၎င်း	人「その人」

- ဤ၊ ထို も照応的に使うことができる。
- ၎င်းは，もの・人両方とも指示することが出来る。

疑問語句

口語体		文語体		
ဘာ	—	မည်သည်၊ အဘယ်၊ ဘာ		もの「何」
ဘယ်ဟာ	—		အဘယ်အရာ	もの「どれ」
ဘယ်	—		အဘယ်	場所「どこ」・理由「なぜ」
ဘယ်သူ	—	မည်သူ၊ အဘယ်သူ		人「どの人，誰」

- これらの中で最も古くまで遡れる形式は **အဘယ်** であり、口語体と共用の **ဘာ** は比較的新しく文語体に入ったもの。
- **အဘယ်** を「何」「なぜ」の意味で用いるのは、現代では **-နည်း** (次項参照) が直接後続する場合に限られる。
- 上記以外の場合、「なぜ」は **အဘယ်ကြောင့်**

・疑問語疑問文を表す小辞

口語体		文語体
-လဲ	—	-နည်း
V-သလဲ	—	V-သနည်း
V-မလဲ	—	V-မည်နည်း၊ V-အံ့နည်း

- 諾否疑問文の **-လော** と異なり、否定の疑問文の場合も、その文が表す出来事の「現実性」の解釈によって、**V-သနည်း** か **V-မည်နည်း**၊ **V-အံ့နည်း** のいずれかを選択する。

指示要素を含む補語

・程度の補語

口語体		文語体	
ဒီလောက်	—	ဤမျှ(လောက်)	これぐらい
အဲဒီလောက်	—	ထိုမျှ(လောက်)	それぐらい
ဘယ်လောက်	—	မည်မျှ(လောက်)၊ အဘယ်မျှ(လောက်)	どれぐらい

- **-ရွှေ(-၍)** を含む形と組み合わせた **ဤရွှေဤမျှ**၊ **ထိုရွှေထိုမျှ**၊ **မည်ရွှေမည်မျှ** などの形も用いられる。

・比況の補語

口語体		文語体	
ဒီလို	—	ဤ(ကဲ့)သို့	このように，こう
အဲဒီလို	—	ထို(ကဲ့)သို့၊ ယင်း(ကဲ့)သို့၊ ၎င်း(ကဲ့)သို့	そのように，そう
ဘယ်လို	—	မည်(ကဲ့)သို့၊ အဘယ်(ကဲ့)သို့	どのように，どう

- -ကဲ့သို့ は通常の名詞や，位置の格小辞を伴う名詞句さえも取ることができる。
ex. နန်းတော်ကဲ့သို့ ခမ်းနားသည်။ မြန်မာပြည်၌ကဲ့သို့ ပုဆိုး ဝတ်သည်။
- ကဲ့ が省略されることがある。

練習問題

次の口語文を解釈し，文語文に書き換えなさい。

- (၁) ဟိုဟာ ဘာလဲ။
- (၂) မြန်မာစာ ဒီလောက် ဖတ်တတ်တယ်။
- (၃) ဟိုလူနဲ့ ခင်မင်ရင်းနှီးသလား။
- (၄) ဘယ်လို အသံ ထွက်သလဲ။
- (၅) ဒီဟာ ခဲတံ မဟုတ်ဘူး။
- (၆) အဲဒါကို ကျွန်တော် တော်တော် စိတ်ညစ်တယ်။
- (၇) ဒီမုန့်ကို အဲဒီလောက် သဘော ကျသလား။
- (၈) ခင်ဗျား ဘယ်ဟာကို ရွေးမလဲ။
- (၉) မနက်ဖန် ဘယ်သူ့ မလာဘူးလဲ။
- (၁၀) အဲဒီနေရာကို ပြန်ရောက်တယ်။
- (၁၁) အဲဒီလူနဲ့ မဆက်ဆံနဲ့။
- (၁၂) ဒီလူက ဘယ်သူ့ကို စွပ်စွဲနေသလဲ။
- (၁၃) သူ့ကို ဒီလို အစီရင် ခံတယ်။
- (၁၄) ကျွန်မ ဘာ ကူညီရမလဲ။
- (၁၅) ဒီမှာ ဘာ ဈေး ချိုသလဲ။
- (၁၆) အမဲသားကို အဲဒီလို ချက်ကြည့်ပါ။
- (၁၇) ဘယ်ကို အလည် သွားကြသလဲ။
- (၁၈) ဒီအခန်းခ တစ်လ ဘယ်လောက်လဲ။
- (၁၉) ဘယ်သူနဲ့ ရန် ဖြစ်နေသလဲ။
- (၂၀) ပျားရည်လို ချိုတယ်။

第4課 名詞句の要素 (1)

複数表示

口語体	文語体	
N-တို့	—	N-တို့ 人称名詞と共に
N-တွေ	∠	N-တို့ (人称名詞でない) 人間名詞と共に
		N-များ 人間名詞・「もの」名詞のいずれとも

指示限定詞

口語体	文語体	
ဒီ N	—	ဤ N၊ သည် N 近称「この」
ဟို N	—	ထို N 遠称「あの，その」
အဲဒီ N	—	ယင်း N၊ ၎င်း N 照応「その」
ဘယ် N	∠	မည်သည့် N၊ အဘယ် N 疑問「どの，何の」
ဘာ N		

- ちなみに「いつ」は မည်သည့် အခါ(၌) (直訳:「どの時」).

格小辞を含む名詞限定句・修飾句

口語体	文語体	
N-၏ N	—	N-၏ N 所有者；動作・出来事・状態の主体
N-့ N	—	N-့ N
N-က N	—	N-မှ N 出所・所属「の」；存在する位置「～にある」
N-နဲ့ N	—	N-နဲ့ N 持ちもの・付随するもの「～をもった，～つきの」

- -၏ も格小辞の一種と考えることができるが，他の格小辞と異なりもっぱら名詞を修飾する要素を導く。
- -့ は，名詞の最終音節の声調が下降調に交替することを示す。このパターンを取るの
は，人称名詞，および人間名詞を主とする少数の名詞に限られる。(文語体ではどちら
らかと言えば-၏の方が一般的である。)

ငါ → ငါ့။ ကျွန်တော် → ကျွန်တော့်။ ခင်ဗျား → ခင်ဗျာ့။ ရှင် → ရှင့်။
သူ → သူ့။

このような声調交替は，対象・着点・位置の格小辞の前でも起こる。

- 前述したように、-န့်ငံ်は名詞句などを等位接続する働きも持つ。付随物と等位接続のどちらの意味を表すかはケースバイケースである。

・程度の名詞修飾句

口語体		文語体	
ဒီလောက် N	—	ဤမျှ(လောက်)(သော) N	このくらいの
အဲဒီလောက် N	—	ထိုမျှ(လောက်)(သော) N	そのくらいの
N ဘယ်လောက်	—	မည်မျှ(လောက်)(သော) NI	どのくらいの
		အဘယ်မျှ(လောက်)(သော) N	

- -သော は名詞を修飾するもろもろの要素を導く小辞である。直接これに対応する口語体の形式はない。
- -သော が省略され、動詞を修飾する場合の形と同形になることがある。

・比況の名詞修飾句

口語体		文語体	
ဒီလို N	—	ဤ(ကဲ့)သို့(သော) N	このような, こんな
အဲဒီလို N	—	ထို(ကဲ့)သို့(သော) N	そのような, そんな
ဘယ်လို N	—	မည်(ကဲ့)သို့(သော) NI	どのような, どんな
		အဘယ်(ကဲ့)သို့(သော) N	

- -မျှ の場合と同じく、-သော が省略されることがある。

練習問題

次の口語文を解釈し、文語文に書き換えなさい。

- (၁) ဒီဈေးမှာ ပစ္စည်း မစုံဘူး။
- (၂) ကျောင်းသူကျောင်းသားတွေကို ဘယ်လို ပြောပြသလဲ။
- (၃) ဦးအောင်ဝင်းနိုင်ဆီကို ဒီစာအုပ် ပို့ပေးမလား။
- (၄) ဟိုတောင်မှာ ကျား ပေါတယ်။
- (၅) အဲဒီဆိုင်က မုန့်ဟင်းခါး အရသာ ရှိတယ်။
- (၆) ဘယ်လို မုန့်ကို စားသလဲ။
- (၇) ဘာစာအုပ်ကို ဝယ်မလဲ။
- (၈) ဟိုဟာ ဘယ်သူ့ရဲ့ ရေခဲသေတ္တာလဲ။
- (၉) ဒါ ဦးဝင်းညီရှိန်နဲ့ ဒေါ်ခင်အိထွန်းတို့ရဲ့ ကောင်းမှုပါ။
- (၁၀) စားပွဲပေါ်က ပန်းကန်လုံး တော်တော် လှတယ်။
- (၁၁) ဟို ဆံတုံးကြီးနဲ့ အမျိုးသမီး ကျွန်တော့ကို နှုတ်ဆက်တယ်။
- (၁၂) ဒီလို ဘတ်စကားမျိုးကို ဂျပန်နိုင်ငံမှာ မတွေ့ရဘူး။
- (၁၃) အဲဒီလို စိတ်မပျက်ပါနဲ့။
- (၁၄) ငွေ ဘယ်လောက် ထုတ်ထားပါသလဲ။
- (၁၅) အဲဒီလောက် ငွေတွေကို ဘယ်လို သုံးမလဲ။
- (၁၆) မြန်မာပြည်က ကျောင်းသား ဘယ်မှာလဲ။
- (၁၇) ဦးဇနည်အောင်ဟာ ဘယ်လိုလူမျိုးလဲ။

第5課 名詞句の要素(2)

数量名詞による量化

[数名詞+類別名詞] からなる数量名詞

口語体	文語体
N [数名詞+類別名詞]	N [数+類] / [数+類]သော N
ex. သတင်း တစ်ခု 「一つの知らせ」	သတင်း တစ်ခု / တစ်ခုသော သတင်း
သတင်း ဘယ်နှစ်ခု 「いくつの知らせ」	သတင်း ဘယ်နှစ်ခု / ဘယ်နှစ်ခုသော သတင်း

- 口語体に見られるような名詞に後続する形式の他に、-သော を介して名詞に先行する形式がある。
- 数量 名詞 なので、「一人 (の人)」 etc. の意味で単独で用いることも可能である。
- 類別名詞を重複させた တယောက်ယောက် 「ある人」 တခုခု 「あるもの」； တစုံ との組み合わせによる တစုံတယောက် 「ある人」 တစုံတခု၊ တစုံတရာ 「あるもの」 なども、同様に用いることができる。

数名詞を含まない数量名詞

口語体	文語体
N များများ	N အများ / အများသော N
N အများကြီး	N အများစု / အများစုသော N 「多くの N」
N များစွာ	N များစွာ / များစွာသော N
N နည်းနည်း	N အနည်းငယ် / အနည်းငယ်သော N 「少しの N」
N အနည်းစု	
N အားလုံး	N အားလုံး / အားလုံးသော N
N အကုန်လုံး	N အလုံး / အလုံးသော N 「すべての N」
	N အလုံးစုံ / အလုံးစုံသော N
	N အကုန်လုံး / အကုန်လုံးသော N
N တချို့ / တချို့ N	N အချို့ / အချို့(သော) N 「一部の N」
cf. တခြား N	— အခြား(သော) N 「別の N」

- 上に挙げたものの他にも、အမြောက်အမြား 「多くの」 စဉ်းငယ်၊ စိုးစဉ်း 「少しの」 ခပ်သိမ်း 「すべての」 などがあり、同様の用いられ方をする。

名詞修飾節を作る小辞

口語体	文語体	
V-တဲ့	V-သည့်	現実
	V-သော	
V-မယ့်	V-မည့်	非現実
	V-အံ့သော	

- -သည့်၊ -မည့်はそれぞれ，文標識-သည့်၊ -မည့်の声調が下降調に交替したものである。この点，形成のしかたは口語体の場合と変わらない。
 - 名詞修飾節の動詞が状態動詞である場合，-သည့်は用いられない傾向にある。-သောにはそのような制限はない。
 - -အံ့သောの使用頻度はさほど高くない。
 - 否定の場合にも，出来事の「現実性」の解釈に従って，小辞を使い分ける。
- ※ -သောは最古の碑文まで遡れる「由緒正しい」形である。だからといって-သောが-သည့်に比べてことさらに「格好つけた」語調を担うとは思われない。

練習問題

次の口語文を解釈し、文語文に書き換えなさい。

- (၁) နှစ်ခါ သုံးခါ ချောင်းဆိုးတယ်။
- (၂) သင်ခန်းစာ အားလုံး ကျက်ထားသလား။
- (၃) စကားလုံးတချို့ကို နားမလည်ပါဘူး။
- (၄) မျှော်လင့်ချက်အများကြီးနဲ့ လာခဲ့တယ်။
- (၅) အားတဲ့ အခါ တယ်လီဖုန်း ဆက်ပါမယ်။
- (၆) တခြားဘာသာစကားကို မလေ့လာဘူးလား။
- (၇) လာမယ့် စနေနေ့မှာ ရုပ်ရှင် ကြည့်မယ်။
- (၈) ဟင်းသီးဟင်းရွက် ဘယ်နှစ်မျိုး ပါသလဲ။
- (၉) ပျောက်သွားတဲ့ ဓာတ်ပုံ
- (၁၀) ပရိသတ်အကုန်လုံး လက်ခုပ် တီးကြတယ်။
- (၁၁) အဖွဲ့ဝင်အနည်းငယ်က သဘောမတူဘူး။
- (၁၂) စားမယ့် ဆဲဆဲ သူ ရောက်လာတယ်။
- (၁၃) တချို့ကျောင်းသားတွေ စာဖတ်ဝါသနာ မပါဘူး။
- (၁၄) သတင်းတစ်ခု ရလာတယ်။
- (၁၅) ဒီဟင်းက ဆီနည်းနည်းနဲ့ စားကောင်းတယ်။
- (၁၆) ပါတီကို လာမယ့် အကြောင်း
- (၁၇) လူ ဘယ်နှစ်ယောက်နဲ့ ဆွေးနွေးရမလဲ။
- (၁၈) သတ္တဝါအာလုံးကို မေတ္တာ ပို့တယ်။
- (၁၉) လွန်ခဲ့တဲ့ တနင်္လာနေ့ဟာ ရုံးပိတ်ရက်ပါ။
- (၂၀) ဈေးဆိုင်များများ ရှိတဲ့ လမ်း

第6課 複文を作るしくみ

この課では、複文やそれに準じる構造を作るための様々な手段を概観する。

名詞化節およびそれに準ずるもの

口語体		文語体	
V-တာ	—	V-သည်	現実
V-မှာ	—	V-မည်	非現実
—	—	V-သည်တွင်	時間
V-တာနဲ့	<	V-သည်နှင့်	原因・理由
		V-သဖြင့်	
V-တာကြောင့်	—	V-သောကြောင့်	理由
V-ဖို့	<	V-ဖို့	目的・要求内容・意図内容 etc.
		V-ရန်	
		V-အံ့သောငှာ	目的

- 口語体と異なり、名詞化節を作る小辞は、動詞文を作る小辞と同一である。
- 動詞文の場合と異なるのは、否定の場合にも「現実性」の解釈に従っていずれかの小辞を用いる点である。
- 文語体の名詞化節は、通例、後に格の小辞や-တာၵなどを伴う。名詞化節が主語になる場合は-မှာ を用いる。
- -ဖို့、-ရန်は名詞的要素だが、それによって作られる文法単位は、名詞化節にかなり近い働きをする。

※ 名詞化節で用いられる-သည်が 12c まで遡れる形式であるのに対し、-မည်は 17c までの碑文には現れない。

※ -သောကြောင့်は 12c まで、-အံ့သောငှာは 13c まで遡れる形式である。

引用要素

口語体		文語体	
引用語句-လို့	<	引用語句 ဟူ၍	「～といて、～と」
		引用語句-ဟု	
引用語句 ဆိုတဲ့	<	引用語句 မည်သော	「～という」
		引用語句 ဟူသော	
		引用語句 ဆိုသော	
引用語句 ဆိုတာ	<	引用語句 မည်သည်	「～というもの、こと」
		引用語句 ဟူသည်	
		引用語句 ဆိုသည်	

- 引用を表すときには、動詞 ဆို-၊ ဟူ- 「いう」あるいは မည်- 「名づける」を含む形式を用いる。မည်-は典型的にももの名前を受けるのに用いられるが、ဆို-၊ ဟူ-は受ける内容を選ばない。
- -ဟု はおそらく ဟူ၍ が縮約したもの。

従属節を作る小辞

口語体		文語体	
V-ပြီး	<	V-ပြီး	継起
V-လို့	<	V-၍	
		V-ရကား	理由
V-တော့	—	V-သော်	時
V-ရင်	<	V-သော်၊ V-လျှင်	条件・時
		V-မူ၊ V-(ပါ)က	
V-ပေမယ့်	<	V-သော်လည်း	逆接
		V-စေကာ(မူ)	

- 従属節を作る小辞の口語体—文語体間の対応は、かなり複雑なものがある。
- これら従属節の詳細は、第8課・第9課で学ぶ。

「従属節もどき」を作る名詞的要素

口語体	文語体	
V-တုန့်	— V-ဝဉ်	「～する時」
၈V-ခင်	< ၈V-မိ ၈V-ခင်	「～しない間，しないうちに」
VV-ချင်း	— V-လျှင် V-ခြင်း	「～するとすぐ，するやいなや」
V-ရင်း	< V-ကာ V-လျက်	「～しながら」
V-ရက်နဲ့	— V-လျက်နှင့်	逆接「～しながらも」

- これらの名詞的要素によって作られる文法単位は，文中での働きは従属節とほとんど変わらないが，細かい点で名詞としての性質を示す。本テキストではこれらによって作られる文法単位を「従属節もどき」と呼んでおく。詳細は解説編第10課・第11課で学ぶ。

練習問題

次の口語文を解釈し、文語文に書き換えなさい。

- (၁) ဒေါ်ကြည်မြင့် ဒီလို ပြောရင် ကျွန်တော် စိတ်အေးတယ်။
- (၂) သူ ဂျပန်နိုင်ငံကို ရောက်ဖူးတာ သေချာတယ်။
- (၃) မလှနဲ့ တွေ့ရင် ဖုန်းဆက်ဖို့ ပြောပေးပါ။
- (၄) မြန်မာနိုင်ငံကို မသွားခင် မြန်မာစာ သင်နေတယ်။
- (၅) သူငယ်ချင်းကို ပေးဖို့ လက်ဆောင်ပစ္စည်း ဝယ်ခဲ့တယ်။
- (၆) ကျွန်တော် ဒီစောင်းကို မြန်မာနိုင်ငံ သွားတုန်းက ဝယ်လာတယ်။
- (၇) အလှူ ဆိုတာ ဗုဒ္ဓဘာသာဝင်တွေရဲ့ ဓလေ့ပဲ။
- (၈) သူ့ကို တွေ့တွေ့ချင်း မှတ်မိပါတယ်။
- (၉) ဒီလို ရေးရင်လဲ ရပါတယ်။
- (၁၀) ဒီတည်းခိုခန်းမှာ တည်းပြီး အလုပ် ရှာတယ်။
- (၁၁) အိမ် ပြန်ရောက်တော့ အမေ မရှိဘူး။
- (၁၂) ကမန်းကတန်း ထွက်လာတာကြောင့် အဘိဓာန် ကျန်ခဲ့တယ်။
- (၁၃) ကျွန်မ ဒီလို ပြောပေမယ့် ဦးစိုးထွန်း စိတ်မဆိုးဘူး။
- (၁၄) ကျွန်တော် ဒီလို ပြောလို့ ကိုမြတ်ထွန်းက စိတ်ချသွားတယ်။
- (၁၅) ကိုတင်ခိုင် ကလေးရတယ် ဆိုတဲ့ သတင်း ကြားပြီးပြီလား။
- (၁၆) ဒေါ်အေးအေးလှိုင် ရှင့်ကို ဦးစား ပေးမယ်လို့ မထင်နဲ့။
- (၁၇) ဖျားရက်နဲ့ ကျောင်းလာတယ်။
- (၁၈) ညတိုင်း ရေချိုးရင်း သီချင်း ဆိုတယ်။
- (၁၉) ဦးခင်အေး အိမ်အသစ် ဆောက်မှာကို ခင်ဗျား သိသလား။
- (၂၀) အဲဒီနေရာကို သွားရင် သတိဝီရိယ ရှိပါ။

第7課 その他の書き換えを要する要素

文脈中での働きを示す小辞

口語体		文語体	
-တော့	<	-မူ -ကား	対比
-ကတော့	—	-ကား	取り立て
-လဲ	—	-လည်း	…も
-ကော	—	-ရော	…も
-သာ	—	-သာ(လျှင်)	排他
-ဲ့	<	-တည်း -ပင်(လျှင်)	伝達の重点
-တောင်	—	-ပင်လျှင်	「…さえ」
-မှ (၈V-)	—	-မျှ (၈V-)	(否定で)「…さえ」(ない)

- 句の末尾に付加され、文脈中での働きを表す小辞がある。日本語の副助詞・係助詞にほぼ当たると考えてよい。
- これらの詳細については、第21課で扱う。

文末の小辞

口語体		文語体	
-ဲ့	—	-တည်း	断定
-ပါလား	—	-ပါ(က)လား၊ -ပါတကား	驚き・意外

- 文末に現れ、断定・願望の表明・驚き・感嘆など、発話の種類や微妙な語調を表す小辞がある。大ざっぱに言えば日本語の終助詞に当たるものと言える。
- 口語体と文語体で形が変わらないものも含め、第22課・第23課で扱う。

並列を表す形式

口語体		文語体	
A-လဲ B-လဲ	—	A-လည်း B-လည်း	「AもBも」
A ဖြစ်ဖြစ် B ဖြစ်ဖြစ်	—	A ဖြစ်စေ B ဖြစ်စေ	「AであれBであれ」

その他

口語体		文語体	
V-စရာ	<	V-စရာ၊ V-ဖွယ်(ရာ)၊ V-ဘွယ်(ရာ)	原因となる物事
VV	—	V-စွာ၊ VV	様態名詞
V-ချင်-	—	V-လို-	「…たい」
[数名詞+類別名詞]-လောက်	—	[数名詞+類別名詞]-ခန့်	「約…」

練習問題

次の口語文を解釈し，文語文に書き換えなさい。

- (၁) ကျွန်တော် ရှမ်းခေါက်ဆွဲ စားမယ်။ ခင်ဗျားကော ဘာ စားမလဲ။
- (၂) ပေးတော့ ပေးတယ်။ မရဘူး။
- (၃) ဒီအလုပ် မအောင်မြင်ခင် ဘယ်သူနဲ့မှ စကားမပြောဘူး။
- (၄) ချိုချိုဟာ အမြဲတမ်း လူကြီးတွေကို ရိုရိုသေသေ ဆက်ဆံတယ်။
- (၅) အဲဒီကိစ္စကို နဲ့နဲ့လေးမှ စိတ်မဝင်စားဘူး။
- (၆) မောင်အေးတော့ မလာနိုင်ပါဘူး။
- (၇) ထွန်းအိန္ဒြာဗိုဟာ သီချင်းလဲ ဆိုတယ်။ ရုပ်ရှင်သရုပ်ဆောင်လဲ လုပ်တယ်။
- (၈) လက်ဖက်သုပ်ကို တစ်ခါလောက် စားကြည့်ချင်တယ်။
- (၉) အလုပ်များလို့ သတင်းစာတောင် မဖတ်အားဘူး။
- (၁၀) သမီးလေးပါလား။
- (၁၁) ကိုယ့်ကိုယ်ကိုသာ အားကိုးပါ။
- (၁၂) ကော်ဖီဖြစ်ဖြစ် လက်ဖက်ရည်ဖြစ်ဖြစ် သောက်ချင်တယ်။
- (၁၃) အဲဒီလူကိုပဲ ဥက္ကဋ္ဌ မြှောက်ကြတယ်။
- (၁၄) ဒီကျောင်းသားလဲ ခြင်း ခတ်တာကို ဝါသနာပါတယ်။
- (၁၅) ဘာသာစကားဟာ ယဉ်ကျေးမှုရဲ့ အခြေခံတစ်ခုပဲ။

解説編

第 8 課 従属節

本課では、動詞句の主動詞に後続して、副詞的な従属節を作る小辞について学習する。

V-သော် <時> 「…とき」, 「…と」

※ 「…とき」が条件の意味を持ち得るのは、多くの言語に見られること。

နွေရာသီ ရောက်သော် ရေခဲမုန့်ဆိုင်သို့ နေ့စဉ် သွားလိုစိတ် ပေါ်၏။

ခေါင်းကိုက်သော် ဤဆေးကို မှီဝဲ။

ကျွန်တော်တို့ ရွှေတိဂုံဘုရားသို့ သွားသော် မိတ်ဆွေဟောင်းတစ်ဦးနှင့် တွေ့ဆုံသည်။

လမ်းဘေးမှ ကော်ဖီဆိုင်တွင် ထိုင်နေသော် တစ်ယောက်သော သူက ငါ့အား လာခေါ်သည်။

ထိုမင်းသမီးသည် ဆယ့်ခြောက်နှစ်အရွယ် ရောက်သော် လှသော အဆင်းအရည် ရှိလာ၏။

V-သော်လည်း <逆接> 「…のに」

※-လည်း 「…も」が付くと意味が変わる。

သူ ဆင်းရဲသော်လည်း အလွန် ရိုးစင်းဖြောင့်မတ်သည်။

သူ ငါ့ကို ရိုက်သော်လည်း ငါ မကြောက်။

သူ အဘယ်မျှလောက် ကြိုးစားသော်လည်း အထမမြောက်နိုင်။

သူ မည်ကဲ့သို့ပင် ပြောဆိုသော်လည်း မယုံနိုင်။

အထူးအမြန်ရထား ဟု ဆိုသော်လည်း အလွန် မမြန်ပါ မဟုတ်လော။

V-လျှင် <条件> 「…たら」

သူ လက်ဆောင် ပေးလျှင် ယူထား။

မြန်မာစာ တတ်လိုလျှင် စာ များများ ဖတ်ပါ။

သွားခွင့် ရနိုင်လျှင် ချင်းပြည်နယ်သို့ သွားလိုပါသည်။

သူ မလာလျှင်လည်း ကိစ္စ မရှိပါ။

သူ ကျွန်ုပ်ကို မြင်လျှင် ထွက်ပြေးမည်။

V-မူ <条件>

သင် ဤကဲ့သို့ ပြုမူ ဧကန် ပျက်စီးမည်။

သင် ဤစာဆိုတော်နှင့် တွေ့လိုမူ ကျွန်ုပ် ဤပုဂ္ဂိုလ်အား ပြောထားအံ့။

မိုးရွာမှုကား ပွဲတော် ကျင်းပနိုင်မည် မဟုတ်ပါ။
ကျွန်တော်သည် ပုဂံသို့ ခရီးသွားလိုသည်။ အဘယ်ကြောင့် ဆိုမှု ပုဂံတွင် ရှေးဟောင်း
ပစ္စည်းများစွာ ရှိသောကြောင့် ဖြစ်ပါသည်။

V-(ပါ)က <条件>

ဤစိတ်မျိုးရှိက ပြည်သူ့အတွက် အကျိုးရှိနိုင်သည်။
လိုအပ်ပါက သက်ဆိုင်ရာ တိုင်းရင်းသား စာကို အသုံးပြုနိုင်သည်။ လိုအပ်လျှင်
စကားပြန်များ ရရှိစေရန် စီစဉ်ပေးရမည်။

V-မှ <時> 「…た後で」；<十分条件> 「…てはじめて」

သူ စာတိုက်သို့ သွားပြီးမှ ဤနေရာသို့ လာမည်။
ငါးကြိမ် ပြန်ဖတ်မှ အဓိပ္ပာယ် နားလည်သည်။
လူတစ်ထောင် တင်မှ တင်နိုင်ချေရှိသော လေး
မြည်းရှင်သည် မြည်းကို ဆဲရေးပြီးမှ ပြင်းထန်စွာ ရိုက်နှက်၏။
သူ ပြောမှသာ ငါ ပြောမည်။

V-အောင် <程度> 「…なるよう」

※「…するため」ではなく「…なるよう」。つまり、従属節の動詞は、意志的に行われる動作を表さないものが多い。

သူ နားလည်အောင် ငါ ရှင်းပြမည်။
ထမင်း ဝအောင် စားပါ။
ဝမ်း မကိုက်အောင် ရေကျက်အေးကို သောက်ပါ။
သင်သည် အကျွန်ုပ် သေအောင် အဘယ်ကြောင့် ဤသို့ နှိပ်စက်သနည်း။

コラム 類別名詞 (1)

類別名詞とは、数名詞と複合を起こして、事物の数量を表す数量名詞を形成するものである（数量名詞については、第 4 課を参照）。これから、1 課につき 2-4 個ずつ類別名詞を紹介し、それによってどのような名詞が計数・計量されるかを述べる。（NUM は数名詞を表す。）

NUM-ယောက် 人を数える

名詞の例 敬意の対象とならない全ての人について使えるので、例は挙げない。

NUM-ဦး 一定の敬意を払って人を数える。

名詞の例 အမှုသည်၊ ဥက္ကဋ္ဌ၊ ဝန်ကြီး၊ အဖွဲ့ဝင်၊ ကိုယ်စားလှယ်

第 9 課 従属節 (続き)

V-ရကား <理由> 「…から」

※-ရ と-ကားの組み合わせだったのかも知れないが，全体で一つの小辞とみなす。

ပုဏ္ဏားသည် ဘေးအန္တရာယ်မှ လွတ်လိုရကား ဤဂါထာများကို ရွတ်၏။
 ဤအချက်သည် အလွန် အရေးကြီးရကား ကောင်းစွာ နှလုံးသွင်းထားသင့်သည်။
 ထိုလူသည် ကုသိုလ်ကောင်းမှု ပြုလိုသူတစ်ယောက် မဖြစ်ရကား ငရဲကျမည်။
 သူ ဆေးလိပ် မကြိုက်သည်ကို ကျွန်ုပ် ရိပ်မိထားရကား သူ့ကို ဆေးလိပ် မတိုက်ပါ။

V-ပြီး <継起> 「…て」

※明らかに動詞 ပြီး-「終わる」からの転用。

မနေ့က ကျွန်တော် ကိုယ်တိုင် ထမင်း ချက်ပြုတ်ပြီး စားသည်။
 ဆန်တစ်ပြည် ဝယ်ပြီး (၈)-ကားဖြင့် ပြန်လာသည်။
 သူ ဘီယာ မှာပြီး ကျွန်မ အဖျော်ရည် မှာသည်။

V-၍ <単純接続> 「…て」

※前後の動詞をただ単につなぐものであり，どのような意味に取れるかは前後の動詞と文脈次第であると思われる。

နေသည် အရှေ့မှ ထွက်၍ အနောက်သို့ ဝင်၏။
 ကျွန်တော် စာမေးပွဲ အောင်၍ တစ်အိမ်လုံး ဝမ်းသာကြ၏။
 ဤနိုင်ငံ၏ ရာသီဥတုသည် အေး၍ ခြောက်သွေ့သည်။
 အလုပ်သမားများသည် ပင်ပန်း၍ အိပ်ပျော်သွား၏။

-၍ による従属節と特定の動詞の組み合わせ

V-၍ ရ- 「…してよい， …することができる」

V-၍ ဖြစ်-IV-၍ နိုင်- 「…することができる」

ဤအခန်းအတွင်းတွင် ဖိနပ် စီး၍ ရသလော။
 ဤပစ္စည်းကို လက်ဖြင့် ကိုင်ကြည့်၍ ရသည်။

ဤအကြောင်းကို မပြော၍ မဖြစ်။
 ကျွန်တော် တစ်ယောက်တည်း သွား၍ ဖြစ်နိုင်သည်။

လှုပ်ရှား၍ မနိုင်အောင် ခိုင်ခံ့သော တိုင်

V-၍ ပြီး-၊ V-၍ ဆုံး- 「…し終わる」

သင် ဤဝတ္ထုစာအုပ်ကို ဖတ်၍ ပြီးပြီလော။ — မပြီးသေးပါ။

ထိုစကားကို ကြား၍ မဆုံးမိကပင် အလုံးစုံသော အနက်ကို နားလည်သည်။

従属節を用いた慣用表現

N-မှ လွဲ- 「…を除く」

ကိုဝင်းမောင်မှ လွဲ၍ အားလုံး မှားသည်။

ငါးပိမှ လွဲလျှင် တခြား မည်သည်မျှ မရှိပါ။

-နှင့် ပတ်သက်-၊ -နှင့် စပ်လျဉ်း- 「…に関する」

သူ ဘာသာရေးနှင့် ပတ်သက်လျှင် အတော် ခေါင်းမာသည်။

အမွေးအကြိုင်နှင့် စပ်လျဉ်း၍ မြန်မာလူမျိုးများအား မမေးပါနှင့်။

N-မှ စ- 「…を始めとする」

ထိုနေ့မှ စ၍ ပါဠိစာ သင်သည်။

ဆီပြန်ဟင်းမှ စ၍ မြန်မာဟင်းမျိုးစုံကို ချက်တတ်သည်။

cf. A, B… စသည်(တို့)၊ အစရှိသည်(တို့) 「A, B… など」；

A, B… စသော N၊ အစ ရှိသော N 「A, B… などの N」

N-မှ နေ(၍) 「…から」

ပြတင်းပေါက်မှ နေ(၍) ဤဘက်ကို ကြည့်နေသည်။

cf. 類似の慣用表現

N-နှင့် တပြိုင်တည်း၊ N-နှင့် တပြိုင်နက် 「…と同時に」

ရထားက ဘူတာရုံသို့ ဆိုက်သည်နှင့် တပြိုင်တည်း သူ ဆင်းသွားသည်။

コラム 類別名詞 (2)

NUM-ခု 主として無生物，動物に使われる例さえある「デフォルトの」類別名詞。(人間はさすがに無理か?) 名詞の例は多すぎるため割愛。

NUM-လုံး もともとは丸いものを数えるときの類別名詞だが，丸くないものにまで使用例が拡張。
 名詞の例 အိုး၊ ပန်းကန်လုံး၊ ဦးထုပ်၊ ခြင်း၊ ခေါင်းလောင်း၊ ခေါင်းအုံး၊ အသီး၊ ငှက်ပျောသီး၊
 ကျောက်ခဲ၊ ရတနာ၊ စိန်၊ ပတ္တမြား၊ မြ၊ ကြယ်၊ တံဆိပ်ခေါင်း၊ စားပွဲ၊ ကုလားထိုင်၊ သေတ္တာ၊
 စက်၊ ရေဒီယို၊ တိုက်အိမ်၊ ခေါင်း၊ ဒူး၊ မျက်စိ၊ မျက်လုံး၊ ဂဏန်း၊ စာ(လုံး)၊ စကား(လုံး)

第 10 課 従属節もどき

※ここで言う「従属節もどき」とは、従属節を作る小辞と似た働きを持つ名詞を中心とする単位を指す。(第 13 課で学習する、動詞を含む複合名詞の特殊なタイプである。)

「従属節もどき」を作る名詞は、次のような特徴を持つ。

- 後に格小辞を取ることがある。
- 動詞と複合を起こすかわりに、その動詞を含む名詞修飾節と共に用いられることがある。
- 他の名詞と複合を起こすことがある。

V-ရာ 「…したところ，すると」 後続し得る格小辞：-၌၊ -တွင်

※もともとは「ある出来事が起きている場面に，新たに別の出来事が起こる」というつながりを表す。

ကျွန်ုပ်အိမ်သို့ ပြန်လာရာ လမ်းတွင် ကိုအောင်ကို တွေ့သည်။
 ရှေးဟောင်းစာပေကို သင်ကြားမည် ရှိရာ ကျွန်တော် ဤစာအုပ်ဖြင့် စသင်ပါမည်။
 ကြည့်၍ ကောင်းသည်ဟု ပြောရာ၌ “မိုက်သည်” ဟူသော စကားလုံးကို သုံးသည်။
 ကျွန်တော်တို့ ဆွေးနွေးနေကြရာ သူ ဝင်စွက်လာပါသည်။

cf. 単純に動詞と複合した場合は「…するもの，ところ」

ကြိုက်ရာ၊ ထင်ရာ၊ ဆိုင်ရာ၊ နေရာ၊ ဆုံရာ၊ ထွက်ခွာရာ၊ ဆိုက်ရောက်ရာ၊ တည်ရှိရာ

V-စဉ် 「…する時」 後続し得る格小辞：-က၊ -၌၊ -တွင်

ကျွန်မ ထမင်း စားနေစဉ် သူ ရောက်လာသည်။
 ကျွန်ုပ် ပြောဆိုနေစဉ် သင်တို့ တိတ်ဆိတ်စွာ နေပါ။
 ထိုသူဌေး အိပ်ပျော်နေစဉ် သူခိုးတစ်ယောက်သည် အိမ်အတွင်းသို့ ဝင်လာသည်။
 သင်္ဘော အလွန် နောက်ကျသဖြင့် ညောင်ဦးမြို့သို့ ရောက်စဉ်က ည (၈)-နာရီ ခွဲနေပြီ။
 “လက်ရွေးစင်” လက်ဖက်ရည်ဆိုင်၌ အနားယူနေစဉ် အဘိုးအိုတစ်ယောက် ဝင်လာသည်ကို တွေ့သည်။

※他の名詞と複合することがある。

အဖိုး အသက်ရှင်စဉ်အခါ ဤဘုရားစာအုပ်ကို ရွတ်ခဲ့သည်။

V-ခိုက် 「…する時」 後続し得る格小辞：-၌၊ -တွင်

ကျွန်ုပ် မရှိခိုက် မြစ်ကြီးနားမှ သူငယ်ချင်းတစ်ယောက် ရောက်လာသည်။
သူ မရှိခိုက် မပြောပါနှင့်။

※名詞修飾節と共に用いられることもある.

မိခင် ဈေးသို့ သွားဝယ်သည့် အခိုက် သမီးသည် အိမ်မှုကိစ္စ လုပ်သည်။
ဦးကိုကိုမောင် လာသည့်အခိုက်တွင် …

※他の名詞と複合することがある.

ကလေး အိပ်နေစဉ်အခိုက် လုပ်စရာများကို လုပ်ထားရမည်။

ωV-မီ 「…する前に，…しないうちに」 後続し得る格小辞：-က

ထမင်း မစားမီ လက် ဆေးပါ။

(၁၁)-နာရီ မထိုးမီ အိမ်သို့ ပြန်ရမည်။

(၁၂)-ရက်နေ့ မတိုင်မီ စာအုပ် ပို့မည်။

ခရစ်တော် မပေါ်မီ အနှစ်-၃၀၀-ခန့် အချိန်က မြန်မာလူမျိုးများ မြန်မာပြည်၌
မနေသေးပါ။

ရန်ကုန် ပြောင်းမလာမီက အဘယ်၌ နေသနည်း။

V-နောက် 「…した後」 後続し得る格小辞：-၌၊ -တွင်

သူတို့ ထမင်း စားပြီးနောက် ထွက်သွားကြသည်။

ရယ်မောကြပြီးနောက် ဦးစံရှားသည် ဆေးတံကို တောင်းယူ၍ ဤသို့ ပြောသည်။

※名詞修飾節と共に用いられる例

ကျွန်ုပ် ရောက်သည့် နောက် သူ ထွက်သွားသည်။

သင် ထမင်း စားပြီးသည့် နောက် ကျွန်ုပ်ကို ခေါ်ပါ။

コラム 類別名詞 (3)

NUM-ပါး 尊ぶべき人や名数を数える

名詞の例 မင်း၊ ဘုရင်၊ နတ်၊ မိဘ၊ ဘုန်းကြီး၊ ရတနာ၊ ဥတု၊ သီလ၊ အပြစ်

NUM-ချု 仏教関係の尊いものを数える

名詞の例 ဘုရား၊ စေတီ၊ ပုထိုး၊ ရုပ်ပွားတော်၊ ကျမ်း၊ ပုရပိုက်

第 11 課 従属節もどき (続き)

V-လျှင် V-ခြင်း 「…するやいなや」 後続する格小辞：-တွင်

သူသည် ကျွန်ုပ်၏ အသံကို ကြားလျှင် ကြားခြင်း ထွက်ပြေးသွားသည်။

မောင်မောင်နှင့် မမ တွေ့လျှင် တွေ့ခြင်း ချစ်သွားကြသည်ဟု ဆိုသည်။

ရန်ကုန်သို့ ရောက်လျှင် ရောက်ခြင်း တစ်ယောက်တည်း ဘတ်(စ်)ကား စီးသည်မှာ သတ္တိ ရှိသည်ဟု ဆိုနိုင်သည်။

ဤ စွယ်စုံကျမ်း ထွက်လျှင် ထွက်ခြင်း စာကြည့်တိုက်များသို့ ရောက်ရှိသွားကြပါသည်။

V-ကတည်း 「…以来」 常に-က が後続

ဤမြို့သို့ ကျွန်ုပ် ရောက်လာကတည်းက စိတ်ချမ်းသာသည် ဟူ၍ မရှိ။

ပထမဦးဆုံး တွေ့ကတည်းက သူနှင့် ကျွန်တော်သည် အမြဲ ရန်ဖြစ်လာကြသည်။

※他の名詞と複合する例

ငယ်ရွယ်စဉ်ကတည်းက ကိုရင် ဝတ်လာသည်။

သမီး မမွေးခင်ကတည်းက အဝတ်အစား များစွာ ဝယ်ထားသည်။

မV-မချင်း 「…するまで」

ဟင်းများ မကုန်မချင်း ထိုင်စားသည်။

ဧည့်သည် မလာမချင်း တံခါး မပိတ်နှင့်။

ကျွန်ုပ်သည် ဤစာရေးဆရာ အိန္ဒိယပြည်မှ ပြန်မလာမချင်း သူ့အိမ်၌ နေထိုင်ခွင့် ရသည်။

V-တိုင်း 「…するたびに」 後続し得る格小辞：-၌၊ -တွင်

ကျွန်တော်တို့သည် ပုဂံမြို့သို့ ရောက်တိုင်း ထိုဆိုင်တွင်သာ နေ့လယ်စာ စားကြသည်။

မြန်မာစာအုပ် ဖတ်တိုင်း အဘိဓာန်ကို ကြည့်ရသည်။

မောင်မောင်နှင့် မမသည် တွေ့တိုင်း ရန်ဖြစ်ကြသည်။

ကျွန်ုပ် လာတိုင်း ဆရာမသည် ကျွန်ုပ်အား ငါးခြောက် လက်ဆောင် ပေးသည်။

cf. နေ့တိုင်း၊ အပတ်တိုင်း၊ ဗုဒ္ဓဟူးနေ့တိုင်း၊ နှစ်တိုင်း၊ လူတိုင်း၊ ရွာတိုင်း၊ မြို့တိုင်း

V-လျက် <同時・付帯状況> 「…ながら」; -လျက်နှင့် <逆接> 「…にもかかわらず」
 သူတို့ စကား ပြောလျက် ရှိကြသည်။
 ဖားငယ်သည် တွင်း၌ အောင်းလျက် နေသည်။
 မြတ်စွာဘုရားသည် လမ်းပေါ်၌ ရပ်လျက် တရား ဟောကြားပေးတော်မူခဲ့ပါသည်။
 သင့်ကို ငါ သတိပေးလျက်နှင့် သင် မေ့လျော့သည်။
 ထမင်းကို စားချင်လျက်နှင့် အငတ်ခံသည်။

V-ရင်း <同時・付帯状況> 「…ながら」 後続し得る格小辞：-နှင့်
 သီချင်းကြီး နားထောင်ရင်း မြန်မာပြည်အကြောင်းကို စိတ် ကူးယဉ်နေသည်။
 တီဗွီ ကြည့်ရင်း ထမင်းမစားပါနှင့်။
 ထိုသူဌေးကြီးသည် အိမ်အပြင်ကို လှမ်းကြည့်ရင်း တခုခု ရွတ်ဆိုနေသည်။
 သွားရင်း လာရင်းနှင့် အလွန်ပင် ဗိုက် ဆာလာပြီ။

V-ကာ <同時・付帯状況> 「…ながら」 後続し得る格小辞：-နှင့်
 သူတို့သည် လက်ခုပ်တီးကာ ကျယ်လောင်စွာရယ်ကြသည်။
 ဖိုးသာအောင်သည် သီချင်း တကြော်ကြော် ဆိုကာ လယ် ထွန်နေသည်။
 လူဆိုးများကို ရဲအဖွဲ့က ဖမ်းဆီးကာ ရဲစခန်းသို့ ခေါ်ဆောင်သွားသည်။
 မောင်းကို ဆက်ကာဆက်ကာ ထုသည်။
 ဆရာသည် မေးခွန်းများကို စိကာစဉ်ကာ ရွေးချယ်ထားလိုက်သည်။

V-စေကာ(မူ) <逆接>
 ခရီး ထွက်လိုစေကာမူ ပိုက်ဆံ မရှိ။
 အလုပ်တာဝန်များ မည်မျှပင် များစေကာမူ သူသည် မညည်းညူပါ။
 ကိုယ့်တပည့် ဖြစ်စေကာမူ ကိုယ့်ထက်သာလျှင် ဆရာ တင်ရမည်။

မV-ဘဲ(ပဲ) <否定の付帯状況・実現しない選択肢> 「…しないで」 後続し得る格小辞：-နှင့်
 နေ့တိုင်း ကော်ဖီ မသောက်ဘဲ မနေနိုင်။
 မိုးရာသီ၌ ထီး မပါဘဲ အပြင်သို့ မထွက်ပါနှင့်။
 သူ ထမင်းကို မစားဘဲ ရေကို သောက်သည်။
 သူ မန္တလေးမြို့သို့ မသွားဘဲ ပြည်မြို့သို့ သွားသည်။
 သင်တို့ မင်းကြီးအမိန့်တော်ကို မရဘဲနှင့် ငါတို့အား မဆီးတားကြနှင့်။

コラム 類別名詞 (4)

NUM-ကောင် 動物を数える

名詞の例 တိရစ္ဆာန်၊ ဆိတ်၊ ကြွက်၊ မြွေ၊ ငါး၊ ငှက်၊ ချိုး၊ စာ(ကလေး)၊ ဂဏန်း၊ ပိုး

NUM-အုပ် 動物の群れを数える

名詞の例 နွား၊ မြင်း၊ ဆိတ်၊ ငှက်၊ ကြက် <例外> စာအုပ်

第 12 課 動詞からの派生名詞

派生名詞 အV

(1) 「…るもの」の意味を表す派生名詞 (ものの派生名詞)

ကျွန်တော်သည် ရန်ကုန်လေဆိပ်တွင် အသိတစ်ယောက်နှင့် တွေ့သည်။

この類の例 အကြော်၊ အလုပ်၊ အကြံ၊ အဆို၊ အအေး၊ အကြီး၊ အခဲ၊ အခက်အခဲ၊ အစစ်၊ အဖြူ၊ အဖြေ၊ အမှန်

ကမ္ဘာပေါ်၌ အကြီးဆုံး လျောင်းတော်မူဘုရား

(2) 「…る (という) こと」(英語の V-ing) の意味を表す派生名詞 (出来事の派生名詞)

သူ့အား ယင်းအကြောင်းကို အသိ ပေးရမည်။

この類の例 အသုံး၊ အရှက်၊ အကူအညီ၊ အတွေ့အကြုံ၊ အပြန်၊ အကျွေး၊ အငြိအငြင်၊ အစည်းအဝေး၊ အတက်အဆင်း၊ အလှ

ကျွန်တော် အရိုက် ခံရသည်။ ကျွန်တော် သူ၏ အရိုက်ကို ခံရသည်။

その他の派生名詞

ほとんどが様態を表すもので、それ自身のみで動詞や名詞を修飾することができる。

VV (動詞の重複)

ကြီးကြီး၊ တော်တော်၊ မြန်မြန်၊ နုနုည့်ည့်၊ အကွက်ကျကျ cf. သေးသေးလေး

ကော်ဖီပူပူနွေးနွေးကို သောက်လိုပါသည်။

cf. 譲歩を表す VV

မိုး ရွာရွာ နေ ပူပူ စက်ဘီး စီးသွားသည်။

အတန်း ရှိရှိ မရှိရှိ ကျောင်းသို့ သွားသည်။

ဘယ်သူနှင့် တွေ့တွေ့ သူ အတင်း ရန်ရှာတတ်သည်။

ဘယ်သို့ သွားသွား သူ့သူငယ်ချင်းများ ရှိသည်။

ဘယ်နှစ်ကြိမ် ခေါ်ခေါ် သူ မထူး။

အVV

အတူတူ၊ အထပ်ထပ်၊ အနိုင်နိုင်၊ အလိုလို

တVV

တဖြည်းဖြည်း၊ ရင်တထိတ်ထိတ်၊ တလူးလူးတလည်းလည်း၊ နောက်ဆံတငင်ငင်

NတV (N と V の組み合わせからの派生)

စနစ်တကျ၊ နေရာတကျ၊ အကျွမ်းတဝင်၊ အရေးတယူ

ခပ်-VV 「やや…」

ခပ်ကျယ်ကျယ်၊ ခပ်တိုတို၊ ခပ်နုနု၊ ခပ်တည်တည်၊ ခပ်ပြုံးပြုံး၊ ခပ်ဝေးဝေး၊
ခပ်မှုန်မှုန်

မV1မV2 (V1 と V2 は同義・類義であることが多い)

မချမ်းမသာ၊ မရှင်းမလင်း၊ မသာမယာ၊ မကျေမနပ်၊ မလှမ်းမကမ်း

<例外> မနိုးမဝေး၊ မသိမသာ

<注意> မVမဖြစ် ← မVလျှင် မဖြစ်-の縮まったもの

အာနန္ဒာဘုရားကို မဖူးမဖြစ် ဖူးရမည်။

NမV (N と V の組み合わせからの派生)

စနစ်မကျ၊ နေရာမကျ၊ ကြိရာမရ၊ ယူကျုံးမရ၊ အဆက်မပြတ်၊ အချိန်မရွေး

မVတV 「…するかしらないかという程度」

မကျက်တကျက်၊ မနူးတနူး၊ မကြားတကြား၊ မပွင့်တပွင့်၊ မရင့်တရင့်၊
မမှည့်တမှည့်

V-စွာ (主として様態を表す派生名詞を作る)

ကောင်းစွာ၊ ပြင်းစွာ၊ ကြီးစွာ၊ လွတ်လပ်စွာ၊ ထင်ရှားစွာ၊ လွန်စွာ၊
ရိုသေစွာ

ချမ်းသာစွာ နေ၏၊ မြတ်စွာ ဘုရား

V-စရာ 「V させる原因となるような物事」

စားစရာ၊ သောက်စရာ၊ ပေးစရာ၊ အားကိုးစရာ၊ လုပ်စရာ၊ ပြောစရာ၊
မေးစရာ၊ စဉ်းစားစရာ၊ ကြောက်စရာ၊ ချစ်စရာ၊ ရှက်စရာ၊ အံ့ဩစရာ၊ ရယ်စရာ

ယနေ့ ဈေး သွားဝယ်စရာ မရှိပါ။

သူတကာနှင့် ယှဉ်ပြိုင်စရာ ရှိသလော။

ထိုတိဗ္ဗိဇာတ်လမ်း စိတ်ညစ်စရာ ကောင်းသည်။

cf. ငါ ထိုဇာတ်လမ်းကို စိတ်ညစ်သည်။

ထိုစာရေးဆရာသည် ရေးစရာအကြောင်း မရှိဘဲ ပိုက်ဆံရရှိ မရေးလိုပါဟု
ပြောဆိုသည်။

V-(စ)ဖွယ်(V-(စ)ဘွယ်) 「V させる原因となるような物事」

※後ろに-ရာ を伴うこともある。

စားဖွယ်၊ သောက်ဖွယ်၊ ဆိုဖွယ်၊ တွေးတောဖွယ်၊ ပျော်ဖွယ်(ရွှင်ဖွယ်)၊
နှစ်သက်ဖွယ်

ဤခွေးကလေးသည် ချစ်ဖွယ် သနားဖွယ် ကောင်းသည်။

ကြောက်မက်ဖွယ်သော အသံကို ကြားရသည်။ cf. ကြောက်မက်ဖွယ် ရှိသော...

ဤအကြံအတိုင်း ဆောင်ရွက်နိုင်သော် ဆိုဖွယ်ရာ မရှိပါ။

コラム 類別名詞 (5)

NUM-ပင် 樹木などの植物を数える

名詞の例 သစ်ပင်၊ ကျွန်း(ပင်)၊ ဝါ(ပင်)၊ ဂျုံ(ပင်)၊ စပါး(ပင်)၊ ပဲ(ပင်)၊ ကောက်(ပင်)၊ ကြံ(ပင်)
)၊ ကြာ(ပင်) <例外> ဆံ(ပင်)၊ ကြိုး၊ ချည်

NUM-ပွင့် 花を数える

名詞の例 ကြာ <例外> မီးပွင့်၊ ကျောက်စိမ်း၊ စိန်၊ ပတ္တမြား၊ မြ

第 13 課 動詞を含む複合名詞・複合名詞句

動詞を含む複合名詞

ビルマ語では、動詞＋名詞の組み合わせからなる複合名詞が多く見られる。複合名詞内の名詞要素には、特定の名詞としか結びつかないものから、様々な動詞と結びつく「生産性の高い」ものまである。ここでは「生産性の高い」名詞要素を学習する。

V-ခါ 出来事が起こる時点

ဆန် ကုန်ခါ၊ ပစ္စည်း ပေါ်ခါ၊ ဆရာဝန် ဖြစ်ခါ၊ သေခါ၊ ပြန်ခါ နီးပြီ။
မြန်မာပြည်သို့ ရောက်ခါစတွင် စကားအခက်အခဲ ရှိသည်။

V-ချိန် 出来事が起こる (ものとみんなが了解している) 時間・時期

ထမင်းစားချိန် လွန်နေပြီ။ ကျောင်းတက်ချိန် မိသည်။
အလုပ်လုပ်ချိန် နောက်ကျသည်။
ကောက်စိုက်ချိန်၊ နားချိန်၊ ကျင်းပချိန်၊ နေဝင်ချိန်၊ မွန်းတည့်ချိန်

cf. 名詞と複合する例 အလုပ်ချိန်

V-ချက် 「V する内容」(V は思考・伝達の動詞) ; 「V である点」(V は属性の動詞)

ထင်မြင်ချက်၊ ခန့်မှန်းချက်၊ ရည်ရွယ်ချက်၊ ခံစားချက်၊ စီမံချက်၊ စီရင်ချက်၊
ကန့်သတ်ချက်၊ ကောက်နုတ်ချက်၊ ထူးခြားချက်၊ ကွဲလွဲချက်၊ ချွတ်ယွင်းချက်၊
ခြွင်းချက်

cf. 名詞と複合する例 စည်းကမ်းချက်

V-မှု 個別具体的な事例でない、抽象化されたものとしての「V すること」、時には「…事件」

ကောင်းမှု၊ ခံစားမှု၊ စည်းလုံးညီညွတ်မှု၊ ဆက်ဆံမှု၊ ဆင်ယင်မှု၊ ဆုံးရှုံးမှု၊
နားလည်မှု၊ ပျော်ရွှင်မှု၊ ယဉ်ကျေးမှု၊ လှုပ်ရှားမှု၊ အုပ်ချုပ်မှု၊ ခိုးမှု၊ ပစ်ခတ်မှု၊
လူသတ်မှု၊ ဗုံးပေါက်ကွဲမှု၊ မတရားမှု

cf. 名詞と複合する例 စက်မှုလက်မှု၊ မြန်မာမှု၊ ဓားပြမှု

V-ရေး 「V に関する (一定の対処・解決を要する) 問題」

ကုန်သွယ်ရေး၊ ကျန်းမာရေး၊ ချစ်ကြည်ရေး၊ စီမံခန့်ခွဲရေး၊ စိုက်ပျိုးရေး၊ ဆက်ဆံရေး၊
တရားမျှတရေး၊ တော်လှန်ရေး၊ လုံခြုံရေး၊ လွတ်လပ်ရေး၊ အုပ်ချုပ်ရေး

cf. 名詞と複合する例 တိုင်းရေးပြည်ရေး၊ နိုင်ငံရေး၊ ပညာရေး၊ ဘာသာရေး၊ စစ်ရေး၊ စီးပွားရေး

複合名詞句

「生産性の高い」名詞要素の中には、名詞句要素や従属節まで含む動詞句をまるごと抱え込んで、節に近い内容を表す「複合名詞句」を作るものもある。第 10・11 課の「従属節もどき」はその特殊な例である。ここでは、普通の「複合名詞句」を扱う。

V-နည်း 「V するしかた，方法」

ကစားနည်း၊ လေ့လာနည်း၊ စကား ပြောနည်း၊ စာစီစာကုံး ရေးနည်း၊ ဗမာဟင်း ချက်နည်း
ကျောင်းသူကျောင်းသားများ ကောင်းစွာ နားလည်နိုင်အောင် သင်ကြားနည်း

V-ဟန် 「V するしかた・様子」(視覚・認識の動詞や，တူ-၊ ပေါ်-「顕れる」 ရှိ-などと共に) ; 「V するふり」(動詞 ဆောင်- 「ふるまう」と共に)

စစ်သည်များသည် စစ်ခရာ မှတ်၍ ပြင်းထန်စွာ တိုက်ခိုက်ဟန် ပြုလုပ်ကြသည်။
ထိုအရာရှိ အလုပ် များဟန် တူသည်။
သမီး စာကျက်ဟန် ဆောင်နေသည်။
ဤသူသည် အိတလီနိုင်ငံသို့ မသွားလျှင် အိတလီအစားအစာစစ်စစ်ကို မစားနိုင်ဟု ထင်မှတ်ဟန် ပေါ်ပါသည်။

V-ပုံ 「V するしかた・様子」(視覚・認識の動詞や ပေါ်-၊ ရ-などと共に)

ဗမာလူမျိုး၏ မျက်နှာသစ်ပုံကို သတိထားမိသည်။
သူ့ညီကိုသူ အတော် ချစ်ပုံ ရသည်။
ငါ့အား အမှတ်တရလက်ဆောင် ပေးရန် ယူလာပုံ ပေါ်သည်။

V-ယောင် 「V するふり」(ဆောင်-と共に). 前に-ချင်を伴うこともあるが，特に「…したい」という意味を表すわけではない。

ဤမိန်းကလေးသည် ချစ်သူနှင့် စိတ်ကောက်ချင်ယောင် ဆောင်၍ နှုတ်ဆိတ်နေသည်။
ခြေထောက်နာ၍ လမ်းမလျှောက်နိုင်ယောင် ဆောင်သည်။
သူသည် ကျွန်တော်တို့ ပြောနေသည်ကို မကြားချင်ယောင် ဆောင်၍ စာအုပ်ဖတ်နေသည်။

V-သူ 動作や出来事の主体. 典型的には人. 「V した人, V である人」

ထုတ်ဝေသူ၊ အာမခံသူ၊ ချမ်းသာသူ၊ ငါးဖျားသူ၊ အစ်မဖြစ်သူ၊

cf. ပြည်သူ၊ တောင်သူ

သူများ ပေးသော အကြံဉာဏ်ကို ယူ၍ ပြဿနာများကို ဖြေရှင်းတတ်သူ

コラム 類別名詞 (6)

NUM-စီး: 乗り物や乗用の動物を数える

名詞の例 ကား၊ စက်ဘီး၊ လှည်း၊ လေယာဉ်၊ လှေ၊ သင်္ဘော

NUM-စင်း: 長く伸びたものを数える

名詞の例 ကြိုး၊ လှံ၊ မြား၊ လှေကား၊ မြစ်၊ ကား၊ စက်ဘီး၊ လှည်း၊ လေယာဉ်၊ လှေ၊ သင်္ဘော

第 14 課 動詞を含む複合名詞・複合名詞句（続き）

V-ခြင်း (V-မှု と比べて) 個別的・具体的な出来事

ကျန်းမာရေး ထိခိုက်စေတတ်သောကြောင့် အစားအသောက်လွန်ကျူးခြင်း ရှောင်သင့်သည်။

အရက် သောက်ခြင်း၊ ဖဲ ကစားခြင်း၊ မိန်းမ လိုက်စားခြင်း စသော အကျင့်ဆိုးမျိုး စာရေးခြင်းသက်သက်နှင့် အသက်မွေး၍ မရပါ။

သူ ဤကဲ့သို့ ပြောဆိုခြင်း ခံရသည်။

V-ကြောင်း 言語伝達される事柄；認識される事柄

၎င်းပုံပြင်သည် အာရုံစူးစိုက်မှု အရေးကြီးကြောင်းကို ဖော်ပြသည်။

ခြွင်းချက် မရှိသော စည်းမျဉ်း မရှိကြောင်း နှလုံးသွင်းထားရမည်။

သူက အမေ ပြန်မလာကြောင်း ပြောသည်။

cf. ထိုဆိုင်အကြောင်းကို ခဏခဏကြားဖူးသည်။

V-ရုံ 「…だけ」

ခဏ ကြည့်ရုံနှင့် စာတစ်မျက်နှာလုံး မှတ်မိသည်။

ဖတ်ရုံပင် ဖတ်ကြည့်မည်။

V-ရန် (対応する口語体の形式 V-ဖို့ も，文語体で用いられることがある)

(1) 目的を表す「…するために」

ဤနည်းများကို သိသာရန် အောက်ပါအတိုင်း တင်ပြလိုပါသည်။

တိုင်းရေးပြည်ရေးကို တင်ပြဆွေးနွေးရန် ဘုရင်ခံချုပ်ကို လွယ်လင့်တကူ မတွေ့နိုင်ချေ။

ဝန်ကြီးသည် မြန်မာနိုင်ငံရေး အတွေးအခေါ်နှင့် ယူဆချက်များကို ဖော်ထုတ်တင်ပြရန် ကြိုးစားခဲ့သည်။

この類の-ရန်を取る動詞：動作を表す動詞を中心とした動詞一般

(2) 命令・許可などの内容「…するよう」

ဆရာသည် ထိုကျောင်းသားကို မနက် (၅)-နာရီမှာ အိပ်ရာမှ ထရန် ပြောသည်။

ဆရာဝန်က သူ့အား သစ်သီး များစွာ စားရန် မှာသည်။

မယားဦးရေ ကန့်သတ်ရန် အတွင်းဝန်များကို မိန့်တော်မူသည်။

မြန်မာသံတော်များသည် ထိုင်ရန် အခွင့်ပေးသည်ထိ နေရာတွင် ရပ်နေရသည်။

この類の-ရန်を取る動詞：ခိုင်း-「させる」 မိန့်-၊ အမိန့် ပေး-「命じる」 မှာ-「指示する」 တောင်း-「頼む」 ဆုံးမ-「忠告する」 အကြံ ပေး-「提案する」 တိုက်တွန်း-「勧める，促す」 အခွင့် ပေး-「許可する」 etc.

(3) 意図・約束などの内容「…しようと」

ဤကျောင်းသူသည် နွေရာသီကျောင်းပိတ်ရက်၌ ခရီး သွားရန် စိတ်ကူးနေပါသည်။
မှူးကြီးမတ်ရာတို့သည် ယင်းတို့ အမှန် လုပ်အပ်သည်ဟု ထင်မြင် သဘောပေါက်
သော်လည်း ဆက်လက်ဆောင်ရွက်ရန် မင်းကြီးအား မတင်လျှောက်ကြချေ။
အင်္ဂလိပ်နှင့် မြန်မာတို့ အပြန်အလှန် သံကိုယ်စားလှယ် ထားရန် သဘောတူသည်။

この類の-ရန်を取る動詞：ကြံ-၊ ကြံစည်-၊ ကြံရွယ်-၊ ရည်ရွယ်-၊ စီမံ-「意図する・計画する」 စိတ် ကူး-「想像する」 စိတ် ပါ-「その気になる」 သဘော တူ-「同意する」 etc.

(4) 属性を表す動詞の主語として「…するのが」「…したほうが」

အနည်းဆုံး ဗုဒ္ဓဘာသာတရားတော်ကို စောင့်သိကျင့်သုံးရန် လိုလေသည်။
အများ သူတကာ ပြောဆိုတိုင်း လိုက်နာရန် မသင့်။
ဤကိစ္စကို ငြင်းဆိုရန် မကောင်းပါ။
ပါဠိစကားကို မြန်မာအနက် တိုက်ရိုက်ပြန်ရန် မလွယ်ကူပါ။
ဦးဖြိုးဝေ၏ အကူအညီ တောင်းဆိုမှုကို လက်ခံရန် ရှိသလော။

この類の-ရန်を取る動詞：လို-「必要だ」 သင့်-၊ ထိုက်-၊ တန်-၊ အပ်-「ふさわしい」
အရေး ကြီး-၊ အဓိက ကျ-「重要だ」 ကောင်း-「良い」 လွယ်-「易しい」 ခက်-「難しい」
နီး-「近い」 ဝေး-「遠い」 ရှိ-「ある」 etc.

cf. V-ရန်によって作られる複合名詞句は，名詞を修飾することができる。

နံရံပေါ်၌ ပြက္ခဒိန် ကပ်ရန် နေရာ မရှိပါ။
လေယာဉ်ခရီးသည်များ ဖတ်ရှုရန် မဂ္ဂဇင်းကို ယူလာပါသည်။

コラム 類別名詞 (7)

NUM-ထည် 衣類などを数える
名詞の例 အဝတ်၊ အင်္ကျီ၊ လုံချည်၊ ပုဆိုး၊ စောင်၊ အိပ်ရာခင်း၊ လက်သုတ်ပဝါ၊ လက်ကိုင်ပဝါ

NUM-လက် 手で扱う道具などを数える
名詞の例 ထီး၊ ဓား၊ သေနတ်၊ ကတ်ကြေး၊ ဆောက်၊ တူ၊ မျက်မှန်

第 15 課 格名詞

格小辞のように，格を表す特別な名詞を「格名詞」と名づけることにする。

「格名詞」と呼ぶゆえん

名詞化節-格小辞

လာသည်နှင့် 「来たので」

名詞修飾節-格名詞

လာသော အတွက် 「来たために」

- 名詞修飾節のかかる先は，名詞であるとみなすのが妥当。
- 名詞修飾節の小辞は，弱化して-သ になることもある。

本テキスト既出の格名詞としては，次のものがある。

ကဲ့(သို့) 「…(の) よう」

သူကဲ့သို့ သိချင်း ဆိုတတ်လျှင် ကောင်းမည်။

ကျွန်ုပ်ကား အမယ်တို့ကို အမိရင်းကဲ့သို့ မှတ်ပါသည်။

သူ၏ မျက်ခုံးသည် မင်ဖြင့် ဆွဲထားသကဲ့သို့ ထင်နေသည်။

အမိသည် မိမိနှလုံး ကွဲအံ့သကဲ့သို့ ပြင်းစွာ ပင်ပန်းသည်။

cf. -သဖွယ် 「…(の) よう」

အဆိုတော်တစ်ယောက်သဖွယ် အသံ ကောင်းသည်။

နန်းတော်သဖွယ် ကြီးကျယ်သော အိမ်

မျှ 「…ほど，ぐらい」

ဤမျှ တန်ဖိုးကြီးသော အရာ ရှားပါးသည်။

ပိုက်ဆံ မည်မျှ ရှိသနည်း။

ဤဘုန်းကြီးသည် ဧရပ်တွင် ရှိသမျှ ပရိသတ်တို့အား တရားဟောသည်။

စာအုပ် ဖတ်နိုင်သမျှ ဖတ်သည့် လူကို “စာကြမ်းပိုး”ဟု ခေါ်သည်။

တတ်နိုင်သမျှ ကူညီပါအံ့။

※ (အ)မျှ は動詞 မျှ-「均分する」からの派生で，通常の名詞として「均分」「均等」

*

*

*

-အတွက်

<動機><目的> 「…(の) ため」; ある行為を行う動機となる人・もの・事柄

သူငယ်ချင်းအတွက် များစွာသော လက်ဆောင် ဝယ်ရသည်။
 ဤပုဂ္ဂိုလ်သည် ဤနိုင်ငံအတွက် များစွာ ကြိုးပမ်း၏။
 လုံခြုံရေးအတွက် ကျွန်တော် တာဝန်ယူမည်။

<原因> 「…(の) ため，せい」; ある事態や感情をひきおこす原因となる人や事柄

သားသမီးများအတွက် မိခင်က စိတ်ပူရသည်။
 ဤအတွက် ကျွန်မ အနားမယူနိုင်ပါ။

<判断の観点> 「…(に) とって，…(の) ため」; その判断が誰・何についてのものか

ထိုခလေးထုံးစံသည် နိုင်ငံခြားသားများအတွက် အလွန် ထူးဆန်းပါသည်။

※動詞 တွက်- 「計算する」からの派生

-ငှာ (အလို နှင့် 共に) 「…(の) ため」; (-သော၊ -ခြင်းなどと共に) = -ရန်

နိုင်ငံသားများ၏အကျိုးစီးပွားအလိုငှာ စီမံကိန်း ဆွဲထားပါမည်။
 ရွာသူရွာသားတို့ ရေ ကစားအံ့သောငှာ မြစ်ကမ်းသို့ သွားကြကုန်၏။
 ထိုမင်းကြီးသည် သထုံပြည်ကို သိမ်းယူရန်ငှာ မတတ်နိုင်ခဲ့ပါ။
 လူကြီးကို ထား၍ လူငယ်မှ အရက် စသောက်ခြင်းငှာ မထိုက်ပါ။

အဖို့ <判断の観点> 「…(に) とって，関して」 「…(の) ため」 cf. အတွက်

တောရွာတွင် နေရသည်မှာ ငါတို့မိသားစုအဖို့ အဆင်ပြေသည်။
 ဤအတန်း တက်ရသည်မှာ သူတို့အဖို့ တကယ်ပင် အကျိုး ရှိသလော။

※通常の名詞として 「分け前，割り当て」

အတိုင်း 「…(に) 沿って，従って，…(の) 通り，…(の) まま」

ဤလမ်းအတိုင်း လမ်းလျှောက်သွားပါ။
 ထုံးစံအတိုင်း ဧည့်သည်တို့ကို ထမင်းကောင်းဟင်းကောင်းဖြင့် ကျွေးမွေးသည်။
 အဖြစ်အပျက်ကို အမှန်အတိုင်း ပြောပြပါမည်။
 ပစ္စည်းများ ဤအတိုင်း ထားခဲ့မည်။
 မိုးလေဝသသတင်းမှာ ပြောသည့် အတိုင်း ထိုနေ့၌ မိုးရွာသည်။

※動詞 တိုင်း- 「測る」「比較する」からの派生

အရ 「…(に) 基づいて, 拠って, 従って」 cf. အတိုင်း

ဥပဒေအရ သူတို့အား ဒဏ်တပ်၏။

ကျွန်တော်၏ အထင်အမြင်အရ သူ ပြောသည့် စကား အရေးမကြီးပါ။

※動詞 ရ-からの派生. 通常の名詞としては「利得」「結果」「意図・趣旨」

အလိုက် 「…(に) 応じて, 従って」

ကိုယ့်ဘာသာအလိုက် အသီးသီး ရှိခိုးကြ၏။

ဆန်အမျိုးအစားအလိုက် ထမင်းချက်နည်း မတူပါ။

※動詞 လိုက်-からの派生. 通常の名詞として「好み, 傾向」「習慣」「旋律」など

コラム 類別名詞 (8)

NUM-ခွန်း 口から発される言葉を数える

名詞の例 စကား၊ မေးခွန်း၊ ဆိုသံ

NUM-စောင် 書きものを数える.

名詞の例 စာ၊ ကျမ်း(စာ)၊ စာစောင်၊ စာတမ်း

NUM-ပုဒ် 句や文を数える

名詞の例 စကားပြေ၊ စာစီစာကုံး၊ ဂါထာ၊ တရား

NUM-ပိုဒ် 散文の段落, 韻文の連を数える

名詞の例 စာ(ပိုဒ်)၊ စာစီစာကုံး၊ ကဗျာ

第 16 課 格名詞 (続き)

အပြင် 「…(の) ほか, …以外」

ဒေါ်လှလှမြိုင်သည် မုန့်ဟင်းခါးအပြင် အုန်းနို့ခေါက်ဆွဲကိုလည်း ချက်တတ်သည်။
သူ့အပြင် အင်္ဂလိပ်လူမျိုး သုံးယောက် လာသည်။
ဤစာအုပ်အပြင် မည်သည့် စာအုပ် ရှိပါသနည်း။
ဆေးလိပ်သောက်သည့် အပြင် ကွမ်းကိုလည်း စားသည်။

※通常の用法では「外」.

အိမ်အပြင်၌ အလှူခံ ရောက်နေသည်။

အထိ <範囲の上限> 「…まで」; -မှ 「から」とペアで用いられることも多い.

ရန်ကုန်မှ မန္တလေးအထိ (၄၃၂)-မိုင် ရှိသည်။
စက်ဘီးဖြင့် အဘယ်အထိ ရောက်သနည်း။
ဧပြီလမှ ဇူလိုင်လအထိ အတန်း ရှိသည်။
(၅)-နာရီအထိ ဤအရပ်၌ ရှိမည်။
စာမျက်နှာ-(၁၅၀)အထိ ဖတ်ပြီးပါပြီ။
သေသည်အထိ မမေ့ပါ။

cf. တိုင်အောင်

သူ လာသည့်တိုင်အောင် ကျွန်ုပ် စောင့်နေသည်။
ကျွန်ုပ်စားပြီးသည့်တိုင်အောင် ဤနေရာမှာ စောင့်ပါဦး။

※動詞 ထိ-「触れる」からの派生

ထက် <比較の対象> 「…より」

သင်၏ကင်မရာ ဤကင်မရာထက် ဈေးကြီးသလား။
ယိုးဒယားပစ္စည်းသည် တရုတ်ပစ္စည်းထက် ကောင်းသည်။
ထိုပညာရှင်အတွက် ဗဟုသုတသည် အသက်ထက် အရေးကြီးသည်။
ကျွန်ုပ်အသက် နှမလေးထက် လေးနှစ် ကြီးသည်။

အစား 「…(の) かわりに」

မိခင်အစား ဈေး သွားဝယ်ရသည်။
သံပုရာသီးအစား ရှောက်သီးကို ဝယ်ရသည်။

※通常の名詞としては「食べ物」「種類」「代用品」「割り算の答」

အဖြစ် <資格・位置付け> 「…として」 (-ဖြင့်を伴うことがある.)

ဦးကျော်မြင့်ကို ဌာနမှူးအဖြစ် ခန့်ထားသည်။

ကျွန်တော် သူ့ကို ကမ္ဘာကျော်ပညာရှင်တစ်ယောက်အဖြစ် လေးစားပါသည်။

စပေါ်ငွေအဖြစ် အိမ်ရှင်အား ဒေါ်လာတစ်ထောင် ပေးရသည်။

※動詞 ဖြစ်-からの派生. 通常の名詞として「出来事」「状況」「境遇」「技能」

cf. အနေ <資格・位置付け> 「…として」 (必ず-ဖြင့်を伴う.)

မန်နေဂျာအနေဖြင့် တာဝန် ယူသည်။

မြန်မာစာဆရာအနေဖြင့် စကားတစ်ခွန်းနှစ်ခွန်း ပြောပါရစေ။

ရန်ကုန်တက္ကသိုလ်၌ ကထိကအနေဖြင့် အင်္ဂလိပ်စာ သင်နေသည်။

※動詞 နေ-からの派生. 通常の名詞として「状況」「立場」「生活」

cf. အားဖြင့် 「…として」「…によって, 応じて, 従って」

ဥပမာအားဖြင့်၊ တစ်နည်းအားဖြင့်၊ များသော အားဖြင့်၊ စင်စစ်အားဖြင့်၊
သာမန်အားဖြင့်၊ အခြေခံအားဖြင့်

(-သော) による名詞修飾節と共に) 「…する/したことによって」

မင်းကြီးသည် အမျက်ထွက်သောအားဖြင့် သူ့အား ဒဏ်တပ်ပါသည်။

အမှားကျူးလွန်သူများကို ညှာတာသောအားဖြင့် ပြုပြင်ရန် အခွင့်အရေး ပေးထား
သည်။

※格小辞-အားと-ဖြင့်の組み合わせ？

コラム 類別名詞 (9)

NUM-ချပ် 平たい薄いものを数える
 名詞の例 ပန်းကန်ပြား၊ တံခါး၊ ကျောက်သင်ပုန်း၊ ဖျာ၊ ကန့်လန့်ကာ၊ မှန်၊ ပန်းချီကား၊ စက္ကူ၊
 မြေပုံ၊ ပေစာ၊ ယပ်၊ စကာ၊ စကော၊ စလောင်း၊ စလူ

NUM-ပြား 薄いものを数える
 名詞の例 ပန်းကန်ပြား၊ ရွှေ၊ ဆေး

NUM-လွှာ 薄いもの，層状のものを数える
 名詞の例 အရွက်၊ စက္ကူ

第 17 課 動詞 ဖြစ်-について

ဖြစ်-の様々な意味

(1) 「起こる」「生じる」

အလွန် အရေးကြီးသော ကိစ္စတစ်ခု ရုတ်တရက် ဖြစ်လာသည်။
လားဟူလူမျိုးများက လူနှင့် တူသော မျောက်သည် လူမှ ဖြစ်လာသည်ဟု ယူဆကြ
သည်။

ရန် ဖြစ်သည်၊ ဒေါသ ဖြစ်သည်၊ ရောဂါ ဖြစ်သည်၊ သံယောဇဉ် ဖြစ်သည်၊
သံသယ ဖြစ်သည်

cf. အမြတ်ရရန် အလိုရှိ၍ အားထုတ်သော်လည်း သူများ၏အကူအညီ မပါလျှင်
မဖြစ်နိုင်ပါ။

မရှိလျှင် မဖြစ်နိုင်သော အရာ



(2) 「A が B になる」

လူတိုင်း သူတော်ကောင်း ဖြစ်နိုင်ပါသလော။ — ဖြစ်နိုင်ပါသည်။ မဖြစ်နိုင်ပါ။
ကျွန်ုပ်၏ မိတ်ဆွေတစ်ယောက်သည် ရာထူးတက်၍ ညွှန်ကြားရေးမှူး ဖြစ်လာသည်။
နန်းတော် ရှိခဲ့ရာနေရာ၌ ယခု သာမန်မြက်ကွင်းပြင်သာ ဖြစ်သွားသည်။



(3) 「A が B である」 (時間の流れを捨象した命題)

ဤသူဌေးသည် သူတော်ကောင်း ဖြစ်ပါသလော။ — ဖြစ်ပါသည်။ မဟုတ်ပါ။
နိုင်ငံတော်ကောင်စီ ဥက္ကဋ္ဌသည် နိုင်ငံတော်သမ္မတဖြစ်သည်။
ဤပုဂ္ဂိုလ်သည် အလွန် နာမည်ကြီးသော ပန်းချီဆရာတစ်ဦးပင် ဖြစ်မည်။

性質や様態を表す名詞と共に 上記 (2)

ထိုကုန်သည်သည် ရွှေငွေရတနာ များစွာ ရ၍ ဝမ်းမြောက်ဝမ်းသာ ဖြစ်သွား၏။
သူ၏ အခန်းတွင် စာအုပ်များ စီဒီများဖြင့် ပစ်စလက်ခတ် ဖြစ်နေသည်။
ထိုစုံထောက်သည် စာရေးတစ်ယောက်ကို သင်္ကာမကင်း ဖြစ်သည်။
သူ သက်သေ ပြလျှင် ဤအမှုသည် အထင်အရှား ဖြစ်လာပါမည်။

cf. ထိုသီချင်းသည် သီချင်းကြီးများအနက် အခက်ဆုံး ဖြစ်ပါသည်။

名詞化節や節相当の複合名詞句と共に 上記(2)または(3), 日本語の「…のだ」文に相当
 ၵင်းတောင်ကြား၌ ထိုအရာရှိသည် အင်မတန် မွေးသော လက်ဖက်ခြောက်ကို
 ရှာဖွေတွေ့ရှိသည် ဖြစ်ပါသည်။

ထိုသူသည် လိုအပ်သော ပစ္စည်းအားလုံးကို မယူဆောင်ဘဲ ခရီး ထွက်သွားခြင်း ဖြစ်
 ၏။

အမတ်ကြီးသည် အကြောင်းထူး ရှိသေးသောကြောင့် ဤသို့ ဆိုသည် ဖြစ်မည်။

ငါ့အား လင်ရှိမရှိကို ဤယောက်ျား မေးသည် ဖြစ်မည်။

ရွာသားတို့သည် မကြိုနိုင်ကုန်သည် ဖြစ်၍ ဤပညာရှိကိုသာ မေးကြ၏။

ငါ၏မြင်းသည် ခြေကျိုးရသည် ဖြစ်သဖြင့် လုံးဝ မပြေးနိုင် ဖြစ်သွားသည်။

နက်ဖြန်နံနက်စောစော၌ ဇာတိသို့ ပြန်ရမည် ဖြစ်သော်လည်း ယနေ့ညမှာမူ အရက်
 မူးအောင် သောက်နေသည်။

မြန်မာသံအဖွဲ့သည် ဘင်္ဂလား၌ ရုံးစိုက်နေထိုင်ရန် မရည်ရွယ်ခြင်း ဖြစ်ဟန်
 တူပါသည်။

焦点後置文 伝達の焦点を，名詞化された節から取り出して後ろに置く構文. 日本語の「…
 のは…だ」に相当.

မနေ့က မောင်ဘ ပုဂံစာအုပ်ဆိုင်၌ မဂ္ဂဇင်းတစ်အုပ် ဝယ်သည်။

မနေ့က		ပုဂံစာအုပ်ဆိုင်၌	မဂ္ဂဇင်းတစ်အုပ်	ဝယ်သည်မှာ	မောင်ဘ	ဖြစ်သည်။
မနေ့က	မောင်ဘ	ပုဂံစာအုပ်ဆိုင်၌		ဝယ်သည်မှာ	မဂ္ဂဇင်းတစ်အုပ်	ဖြစ်သည်။
မနေ့က	မောင်ဘ		မဂ္ဂဇင်းတစ်အုပ်	ဝယ်သည်မှာ	ပုဂံစာအုပ်ဆိုင်၌	ဖြစ်သည်။
	မောင်ဘ	ပုဂံစာအုပ်ဆိုင်၌	မဂ္ဂဇင်းတစ်အုပ်	ဝယ်သည်မှာ	မနေ့က	ဖြစ်သည်။

သူတို့ ကချင်ပြည်နယ်သို့ သွားသည်မှာ မီးရထားဖြင့် ဖြစ်သည်။

ဦးခင်မောင်ကြည် နောက်ကျသည်မှာ မည်သို့ကြောင့် ဖြစ်ပါသနည်း။

— စက်ဘီး ပျက်သောကြောင့် ဖြစ်ပါသည်။

cf. မနေ့က ပုဂံစာအုပ်ဆိုင်၌ အဘိဓာန်တစ်အုပ် ဝယ်သည်မှာ မောင်ဘ မဟုတ်ပါ။

A ဖြစ်စေ B ဖြစ်စေ 「A にせよ B にせよ」

ကချင်လူမျိုး ဖြစ်စေ ကရင်လူမျိုး ဖြစ်စေ ခရစ်ယာန်ဘုရားကို ကိုးကွယ်ကြပါသည်။

ထိုသူသည် မွန်စာကို ဖြစ်စေ ရှမ်းစာကို ဖြစ်စေ ဖတ်တတ်ပါသည်။

အနုပညာ ကျွမ်းသည် ဖြစ်စေ မကျွမ်းသည် ဖြစ်စေ ထိုပန်းချီ လှသည်ဟု
 မထင်သော သူ မရှိ။

コラム 類別名詞 (10)

NUM-ချောင်း: 棒状のものや紐などを数える

名詞の例 ခဲတံ၊ တုတ်၊ ထောက်၊ ကြိမ်လုံး၊ ချိတ်၊ ဓား၊ ဘီး၊ သော့၊ အပံ၊ ဆူး၊ ဇွန်း၊ တူ၊ လက်၊ ခြေထောက်၊ သွား၊ အစွယ်၊ အရိုး၊ ချို၊ ကြိုး <例外> အသက်

NUM-ကြောင်း: 長く引き伸ばされるものを数える

名詞の例 မျဉ်းကြောင်း၊ မြစ်၊ လမ်း၊ စာ <例外> စစ်ကြောင်း

従属節と類似表現のまとめ

[] 内の数字は、当該型式を扱うこのテキストの課を表す。

	従属節 [6,8,9]	名詞化節/ 名詞修飾節 +格小辞 [6]	「従属節もどき」 [6,10,11] 複合名詞句 [6,14]	名詞修飾節 +格名詞 [15,16] etc.
継起	V-၍ / V-ပြီး		V-ပြီး-နောက်(-၌)တွင်	V-သည့် နောက်
原因理由	V-၍ / V-ရကား	V-သော-ကြောင့် / V-သ-ဖြင့် / V-သည်-နှင့်		V-သော အားဖြင့်
十分条件	V-မှ			
条件	V-မူ / V-လျှင် / V(-ပါ)က / V-သော်			
時	V-သော်	V-သည်-တွင်	V-ရာ(-၌)တွင် / V-ခိုက်(-၌)တွင် V-စဉ်(-က)၌တွင်	V-သည့် အခိုက်(-တွင်)
逆接	V-သော်လည်း		V-လျက်-နှင့် / V-စေကာ(မူ)	
同時付帯			V-လျက် / V-ရင်း(-နှင့်) / V-ကာ(-နှင့်) [肯定] မV-ဘဲ(-နှင့်) [否定]	
その他の時間関係			V-လျှင် V-ခြင်း(-တွင်) 「V するとすぐに」 မV-မီ(က) 「V する前に」 မV-မချင်း 「V するまでに」 V-ကတည်းက 「V して以来」 V-တိုင်း(-၌)တွင် 「V するたびに」	V-သည့် တိုင်အောင် 「V するまで」
程度目的	V-အောင်		V-ရန်	V-အံ့သော ငှာ

第 18 課 動詞の構造 (1) — 文法的な複合動詞

内部構造からみた動詞の分類

- 単純動詞
- N+V イディオム動詞
နှုတ် ဆက်-၊ လက် ထပ်-၊ နား လည်-၊ စိတ် ညစ်-၊ ဝမ်း သာ- etc.
- 複合動詞
 - 同義・類義の動詞からなる複合動詞
ကိုက်ညီ-၊ သတ်မှတ်-၊ ထောက်ပံ့-၊ တိုးတက်-၊ ကန့်ကွက်-၊ အေးချမ်း- etc.
 - 文法的な複合動詞

複合動詞の後要素として現れる動詞

တတ်- 「…できる」 「…がちだ」； နိုင်- 「…できる」 「…してよい」； လို- 「…したい」 などの状態動詞は，前の動詞と複合して，状態動詞を作り出す．類似の動詞として，次のようなものがある．

V-သင့်-၊ V-ထိုက်-၊ V-တန်-၊ V-အပ်-၊ V-ရာ- 「…べきだ」

နှစ်ဖက်စလုံး ပိုက်ဆံ မယူထိုက်ပါ။

လုပ်အပ်သည်ကို မလုပ်ဘဲ မလုပ်အပ်သည်ကို လုပ်သည်မှာ မည်သို့မျှ အကျိုး မရှိ။

အမှားကျူးလွန်မိသူများကို စိတ်ရှည်လက်ရှည် ပြောင်းပြရာ၏။

V-ကောင်း- 「…したほうがいい」

ဤကဲ့သို့သော လူမျိုးနှင့် ရန်မဖြစ်ကောင်းပါ။

သူများရှေ့ကား ပြောကောင်းမည် မထင်ပါ။

V-သာ- 「らくらく…する，スムーズに…する」

အကြင်သူ၏အမူအရာကို ကြည့်လျှင် ထိုသူ၏အကြံအစည်မှာ သိသာသည်။

လူကြီး များ၍ ငါတို့ မနေသာ။

V-လွယ်- 「…しやすい」

လိမ္မော်သီးသည် ပုပ်လွယ်သည်။

အစိုးရစီမံကိန်း ဟူသည် ပြောင်းလွယ်သည်။

V-ခဲ- 「めったに…ない」

ဤမျှလောက် ကောင်းသော အုန်းနို့ခေါက်ဆွဲသည် အတော် စားရဲခဲ့သည်။

V-လောက်- 「…するほどだ」「…するのに十分だ」

ဆိုင်ကို ဖွင့်နိုင်လောက်ပါသည်။

သူတို့ အိမ် ရောက်လောက်ပြီလော။

V-အား- 「…する暇がある」

သူငယ်ချင်းများ လာရောက်လည်ပတ်ခြင်း များသဖြင့် ကျွန်မ စာ မဖတ်အားပါ။

V-ရဲ-| V-ဝံ့- 「…する勇氣がある」

အဖေ ဆူမည်ကို ကြောက်သောကြောင့် မဖြူ ဤအကြောင်းကို မပြောရဲပါ။

အဖော် မပါဘဲ တောအတွင်း၌ လမ်းလျှောက်ဝံ့သလော။

使役動詞の後要素

V-ခိုင်း- 「…するよう言う，…させる」； V-စေ- 「…なるようにする，…させる，…してもらう」は，前の動詞と複合して使役の動詞を作り出す。

မိခင်က ကျွန်တော့်ကို စာ မရေးခိုင်းပါ။

တက္ကသိုလ်ရှေ့၌ ကားကို ရပ်ခိုင်းပါ။

သားကို ထိုမိန်းကလေးနှင့် မတွေ့စေလိုပါ။

ယင်းဗုံးသည် လူအများစုကို သေစေနိုင်သည်။

コラム 類別名詞 (11)

NUM-ကွင်း 環状のものを数える

名詞の例 လက်စွပ်၊ လုံချည်

NUM-ခွေ 巻かれたものを数える

名詞の例 ကြိုး(ခွေ)၊ ခြင်ဆေး(ခွေ)

第 19 課 動詞の構造 (2) — 動詞の連続

出来事の継起を表す動詞連続

動詞連続の基本的な意味は、「出来事の継起」である。

မနေ့က ကိုယ်တိုင် ထမင်း ချက်စားသလော။
 သူငယ်ချင်းများအား ဖိတ်ကျွေးမည်။
 ကျွန်မ ရွှေပုစွန်မုန့်ဆိုင်မှ မုန့်ကို ဝယ်လာသည်။
 မြို့ထဲသို့ သွားမည် ဆိုသော် သူ့ကိုလည်း ခေါ်သွားပါလော့။

継起を表す動詞連続では、前要素に-၍ を付加させたパラフレーズが可能である。

ချက်၍ စားသလော။ ဖိတ်၍ ကျွေးမည်။ ဝယ်၍ လာသည်။ ခေါ်၍ သွားပါ။

継起を表す動詞連続では、否定辞 မ- は連続の後要素に前接される。

ချက်မစားလော။ ဖိတ်မကျွေးပါ။ ဝယ်မလာပါ။ ခေါ်မသွားပါနှင့်။

cf. 文法的複合動詞

မလုပ်အပ်ပါ။ မနေသာ။ မပြောရဲပါ။ မတွေ့စေလိုပါ။

補助動詞

動詞連続の後要素のうちあるものは、前要素を補助する働きを持つ。

V-ကြည့်- 「…てみる」

ထမင်းကြော်ကို နည်းနည်း မြည်းကြည့်သည်။
 ဤစကားလုံးကို အသံ ထွက်ကြည့်ပါဦး။

cf. ရန်ကုန်တိရစ္ဆာန်ဥယျာဉ်သို့ ဝင်ကြည့်သည်။

V-ထား- 「…ておく」

ကျွန်တော်သည် အခြေခံကွန်ပျူတာသင်တန်း သင်ထားသည်။
 သူ ပိုက်ဆံ စုမထားဘဲ အကုန်လုံး သုံးလိုက်မိသည်။
 နံရံ၌ ရန်ကုန်တိုင်းမြေပုံကို ကပ်ထားသည်။

cf. စားပွဲပေါ်၌ စာအိတ်နှင့် တံဆိပ်ခေါင်းကို ထုတ်ထားသည်။

V-ပေး- <恩恵を与える> 「…てやる」「…てくれる」

ကမ္ဘာအေးဘုရားရှေ့၌ အမှတ်တရဓာတ်ပုံ ရိုက်ပေးမည်။
 ဤလျှပ်စစ်အဘိဓာန် အလို ရှိလျှင် ဖခင်က ဝယ်ပေးမည်။
 သင်ပေးသည်။ ချေးပေးသည်။ cf. သင်ယူသည်။ ချေးယူသည်။

cf. မိခင်က သမီးအား ဂျပန်ဝတ်စုံကို ဝတ်ပေးသည်။
 တနေ့နေ့တွင် သင့်အား ဆိုင်ရှင်နှင့် မိတ်ဆက်ပေးမည်။

V-နေ- <動作の進行> 「…している」; <変化後の状態> 「… (になっ) ている」

သူ စကား တစ်ခွန်းမျှ မပြောဘဲ ထမင်း စားနေသည်။
 ကာတွန်းစာအုပ်သာ ဖတ်မနေနှင့်။
 ကျွန်မ ရောက်သွားသော အခါ ဤအကြော်ဆိုင်သည် ဖွင့်နေပြီ။
 သင် ဗမာစကား ကောင်းကောင်း ပြောတတ်နေပြီ။

V-လာ- <現在に至る持続> 「…してくる」; <変化の進行> 「… (になっ) てくる」

ထိုဆရာမသည် ပြင်သစ်စာသုတေသနကို အဆက်မပြတ် လုပ်လာသည်။
 ထမင်းအိုး ဆူလာပြီ။
 ယခု မန္တလေး၌ အေးလာပြီ။
 သင် ဗမာစကား အနည်းငယ် ပြောတတ်လာပြီလော။

V-သွား- <現在以降の持続> 「…していく」; <変化の完了> 「… (になっ) てしまう」

ကျွန်တော် ဤအကြံအစည် အထမြောက်အောင် ကြိုးစားသွားမည်။
 ငါ၏ မီးဖို ပျက်သွားသည်။
 ဟင်းချို အေးသွားပြီ။
 ရန်ကုန်၌ နှစ်နှစ်ခန့် နေလျှင် ဗမာလူမျိုးတစ်ယောက်ကဲ့သို့ ပြောတတ်သွားမည်။

V-ပြီး- <動作の完了> 「…し終わる, …てしまう」

ထမင်း သုံးဆောင်ပြီးပြီလော။
 — ဟုတ်ကဲ့၊ စားပြီးပါပြီ။ စား၍ မပြီးသေးကြောင်းပါ။
 မအေးအေးခင်သည် ယင်းလမ်းညွှန်စာအုပ်ကို ဖတ်ပြီးတော့မည်။

前補助動詞

動詞連続の前要素のうちあるものは、後要素を補助する働きを持つ。

ပို-V- 「より…，さらに…」

ဘတ်စကား တိုးစီးရသည်မှာ မလွယ်ဟု ဆိုသော်လည်း မြို့ပတ်ရထားက ပိုဆိုးသည်။

ထိုသူသည် သူများထက် ပိုက်ဆံ ပိုရသည်။

ဤစာအုပ်သည် ထိုစာအုပ်ထက်ပိုလွယ်သည်။

cf. ပို၍ ကြီးသည်။ ပိုက်ဆံ ပို၍ ရသည်။ ပို၍ လွယ်သည်။

ဆက်-V- 「続けて…，引き続き…」

ဂျပန်စာသင်တန်း ဆက်တက်၍ ရသလော။

ရှင် မကြာခဏ နောက်ပြောင်သောကြောင့် ကျွန်မ ဆက်မပြောလိုတော့ပါ။

စ-V- 「初めて…」 「…し始める」

ယနေ့ အိန္ဒိယရုပ်ရှင်ကားအသစ် စပြမည်။

ဆိပ်ကမ်းမှ သင်္ဘော စခွာပြီ။

ဤသို့သော အဝတ်အစားမျိုး ကိုလိုနီခေတ်မှ စပေါ်သည်။

ထပ်-V- 「再び…する」

အသံထွက် အနည်းငယ် ဝဲသော သူအား ထပ်ပြောခိုင်းပါသည်။

ရန်ကုန်သို့ ရောက်လျှင် မြန်မာအဘိဓာန်တစ်စုံ ထပ်မှာထားပါ။

ပြန်-V- <再度・反復> 「再び…する」；<反応・反作用>

ဤဓာတ်ပုံများကို ကြည့်သော် မန္တလေး-ပုဂံ ခရီးအကြောင်းကို ပြန်သတိရမိသည်။

မြင်းလှည်းဖြင့် စစ်ကိုင်းမြို့တွင်းကို တစ်ပတ် ပတ်၍ (၅)-နာရီတွင် ပြန်လာသည်။

様々な様態を表す前補助動詞

ကျွန်မ မေးသော မေးခွန်းကို ကြိုသိသကဲ့သို့ သူ ချက်ချင်း ဖြေသည်။
မဟုတ်ကဟုတ်က လျှောက်မပြောနှင့်။
ကျွန်တော် နေရန် အိမ်ကို အတူတကွ လိုက်ရှာပေးမည်လော။
သူငယ်ချင်းများအားလုံးသည် ကျွန်မ၏အိမ်တွင် အားပါးတရ ထမင်းဟင်း ဝိုင်းစားကြ
သည်။
မိဘများ မသိအောင် အပြင်သို့ ခိုးထွက်သွားသည်။

လာ-V-၊ သွား-V- 「その場所に来て/行って…する」；転じて 「…しに来る/行く」

မနေ့ညက ဒေါ်ယဉ်ယဉ်မေ ကျွန်တော့ထံသို့ အတန်းအကြောင်းကို လာပြောသည်။
ဤကလေး စိန်စိန်သော်၏အနားသို့ သွားကပ်သည်။
မနက်ဖြန် (၅)-နာရီ၌ မမေ့မလျော့ ဓာတ်ပုံ လာယူပါ။
ကျွန်တော် ထိုလက်ဖက်ရည်ဆိုင်၌ ကြက်သားပလာတာ သွားစားသည်။

コラム 類別名詞 (12)

NUM-ကိုး 紐を通したものを数える

名詞の例 ပုတီး၊ ပန်းကိုး

NUM-စည်း 束を数える

名詞の例 ထင်း၊ ပျိုး၊ မြက်၊ ပန်းစည်း၊
ကန်စွန်းရွက်၊

NUM-ထုပ် 包みを数える

名詞の例 ထမင်းထုပ်၊ ခေါက်ဆွဲ၊ ဂေါ်ဖီ(ထုပ်)

第 20 課 動詞の構造 (3) — 動詞を補助する小辞

動詞に後続して、動詞を補助する役割を持つ小辞が豊富にある。

V-ကြ <主語の複数性・個別性>・<相互的動作> 「…あう」

မောင်မောင်နှင့် မောင်ဘသည် ထိုခွေးကို တုတ်ဖြင့် ရိုက်ကြသည်။
 မောင်မောင်နှင့် မောင်ဘသည် အချင်းချင်း တုတ်ဖြင့် ရိုက်ကြသည်။
 ကျွန်မ၏ အစ်ကိုနှင့် သူ၏ ညီမသည် အချင်းချင်း ချစ်ကြိုက်နေကြသည်။

* * *

V-လိုက် <思い切り・決断> 「…てしまう，…てやる」；(否定のみ) 「たまたま…ない」 基本的意味は、「必要・適当なタイミングで、動作・変化が起こる」

ပွင့်ပွင့်လင်းလင်း ပြောလိုက်ပါသည်။
 ဤဆန်အိတ်ကိုလည်း သယ်လိုက်ပါ။
 သူ၏ ဂျပန်နာမည်ကို မသိလိုက်ပါ။
 မနေ့က ကျွန်မ ရထားကို မမိလိုက်ပါ။

V-မိ <不注意><無意識>

သူ ကောင်းစွာ ဂရု မစိုက်၍ မကြာခဏ ခလုတ်တိုက်မိသည်။
 မြန်မာပြည်အကြောင်းကို လွမ်းမိပါသည်။
 မနေ့ညက တီဗွီသတင်းအစီအစဉ် မကြည့်မိ။

V-ခဲ့ <現在位置への移動> 「…てくる」；<現在までの持続> 「…てきた」；<過去> 「…た」

အိမ်၌ နေ့လယ်စာကို မစားခဲ့သလော။
 မနက်ဖြန် (၈)-နာရီခန့် လာခဲ့မည်။
 အမျိုးသမီးနှင့် အတူတူ လိုက်ခဲ့ပါ။
 တက္ကသိုလ်ဒုတိယနှစ်မှ စ၍ မြန်မာစာ သင်ခဲ့ပါသည်။
 ရှေးအခါက ဂျပန်လူမျိုးများ အသား မစားခဲ့ကြ။

V-ဖူး(-ဘူး) <過去の経験> 「かつて…た」「…たことがある」

အိမ်မြှောင် မမြင်ဖူးလျှင် မြန်မာပြည်သို့ သွားလိုက်ပါ။
 မယဉ်ယဉ်အေးလည်း ဤစာရေးဆရာနှင့် တွေ့ဖူးသည်။

V-ကုန် 1 「すっかり…，完全に…，ことごとく…」

လယ်ယာတို့ကို မြက်ပင်ပေါင်းပင်တို့သည် ဖျက်ဆီးကုန်၏။

သူသည် ရှိသမျှ ငှက်များကို လွတ်ကုန်သည်။

ဆွေမျိုးသားချင်းအားလုံး အခြားရွာသို့ ပြောင်းသွားကုန်ကြပြီ။

V-နှင့် 「先に…」

ယနေ့ည ကျွန်မ နောက်ကျသော် တစ်ယောက်တည်း ညစာ စားနှင့်ပါဟု စာ ရေးထားသည်။

ကျွန်တော် ဇာတ်ရုံ သွား၍ လက်မှတ် ဝယ်ထားနှင့်သည်။

V-ဖြစ် <困難を排しての達成> 「何とか (して) …」 「…しおおせる」

ဇွဲ မရှိသောကြောင့် ဇာတ်ကြီးဆယ်ဘွဲ့ မဖတ်ဖြစ်ပါ။

မြန်မာစွယ်စုံကျမ်းတစ်စုံ ဝယ်ဖြစ်အောင် ဝယ်ခဲ့မည်။

V-ရက် <非情さ> 「あえて…」; (否定で) 「とても…できない，してられない」

သူ စိတ်ပျက်နေသည်ကို ကျွန်မ မကြည့်ရက်ပါ။

V-လု <実現直前> 「今にも…しそうだ」 「もうじき…」 (多く-ပြီ と共に)

မိုးရွာလုပြီ။

ဟင်း ကျက်လုပြီလား။

ကြိုး ပြတ်လုပြီ။

ရထား ထွက်လု နီးပြီ။

以上の小辞は，V-ကြ と共起する際には，通常その前に現れる。

*

*

*

V-ရ <不可避性>

※肯定で「…ねばならない」「…できる」「…に違いない」，否定で「…てはいけない」「…できない」など色々に訳されるが，要は「動作主体の力の及ばない外力や状況によって出来事が起こる」ということを表す。

ဤအခန်းအတွင်းတွင် ဖိနပ် ချွတ်ရသည်။ မချွတ်ရ။

နေ့စဉ် သစ်ပင် ခုတ်ကြရပါသည်။

ရွှေတိဂုံဘုရားကို ရန်ကုန်မြစ်မှ မြင်ရသလော၊ မမြင်ရလော။

ဆရာ သဘော မတူဟု ဆိုလျှင် အကြောင်းတခုခု ရှိရမည်။

ဤသီချင်းကို ကြားဖူးရမည်။

V-စမ်း <話し手の強い希望>

ပြောစရာ ရှိလျှင် ပြောလိုက်စမ်းပါ။

ထိုမျှ အန္တရာယ် ရှိသော နေရာသို့ မသွားလိုစမ်းပါနှင့်။

ကျွန်တော်တို့ ကျောင်းသား ဖြစ်စဉ်ကကဲ့သို့ အတူတကွ ပေါင်း၍ တီးမှုတ်လိုစမ်းပါ
ဘိ။

V-လွန်း <許容範囲外> 「…すぎる」(肯定のみ)

ဆူးလေမှ မင်္ဂလာဒုံအထိ ခြေကျင်လျှောက်မည် ဆိုလျှင် ဝေးလွန်းပါသည်။

စိတ်မချလွန်း၍ လိုက်လာရပါသည်။

အင်းယားကန်ဟိုတယ်အထိ သုံးရာ ဆိုလျှင် ဈေးကြီးလွန်းသည်။

V-လှ 「非常に…」(主として状態動詞と共に)

ထမင်း ဆာလှပြီ။

ဤညသည် ချမ်းအေးလှသည့် ညတည်း။

သူငယ်ချင်းနှင့် မတွေ့ရသည်မှာ ကြာလှပြီ။

ပြဿနာ မရှိလှပါ။

V-ရှာ <主語に対する憐れみ> 「かわいそうに…」 「気の毒に…」 「ご苦労にも…」

ယခင်နှစ်က ဦးမောင်မောင် ဆုံးသွားရှာပြီ။

တိုကျိုတစ်မြို့တည်းသားသူငယ်ချင်းနှစ်ယောက် တစ်လတစ်ကြိမ်ပင်လျှင် မတွေ့ကြရရှာ
ဟု ကြားသိရသည်။

V-ပြန် <出来事の再現> (感情的なニュアンスを込めた) 「また…」

မီး ပျက်ပြန်ပြီ။ ပန်ကာ မလည်သည့် အခန်းအတွင်း၌ စာ ဖတ်ရပြန်သည်။

သူ မလာပြန်လော။ cf. သူ ပြန်မလာလော။

以上の小辞は、V-ကြ と共起する際には、通常その後に現れる。

*

*

*

V-ကုန် 2 <主語の複数性>

※丁寧な語調を表す小辞-ပါ と共起する際には、その後に現れる。

ငါး လိပ် မိကျောင်း လင်းပိုင်တို့လည်း များစွာ ရှိကုန်၏။

သူတော်ကောင်းတို့သည် ပညာရှိသောသူကိုသာလျှင် ချီးမွမ်းကုန်၏။
သူတို့ တစ်ယောက်မကျန် “သဘောတူသည်” ဟု ဆိုကြပါကုန်၏။

* * *

V-သေး၊ V-ဦး <前の事柄を引き継ぐ> 「まだ」「さらに」

V-တော့ <前の事柄と異なる> 「もう」「やっと」

※一般に，-သေးが現れる種類の文には-ဦးが現れず，-ဦးが現れる種類の文には-သေးが現れない。

အိမ်၌ ဖုန်း မရှိသေးပါ။

ဤအခန်းထဲတွင် ရေခဲသေတ္တာ မရှိတော့ပါ။

ကျွန်တော် ဤအလုပ်ကို ကျေနပ်နေပါသေးသည်။

ယခုမှပင် သူ ကျေနပ်ပါတော့သည်။

မအေးအေးသော် သီချင်း ဆိုပါဦးမည်။

ဦးဘုန်းမြင့် စောင်း တီးပါတော့မည်။

ထမင်း စားပါဦး။

ဘီယာ သောက်ပါတော့။

မစဉ်းစားပါနှင့်ဦး။

မစိုးရိမ်ပါနှင့်တော့။

※-သေး၊ -ဦးの選択，および，他の小辞からみたこれらの小辞の位置は，次表のようにまとめられる。

情報	否定	မV သေး ပါ	∅	မV တော့ ပါ	∅
授受文	肯定 現実	V	ပါ သေး သည်	V	ပါ တော့ သည်
	非現実	V	ပါ ဦး မည်	V	ပါ တော့ မည်
願望	否定	မV	ပါ နှင့် ဦး	မV	ပါ နှင့် တော့
	肯定	V	ပါ ∅ ဦး	V	ပါ ∅ တော့

コラム 類別名詞 (13)

NUM-တုံး 塊を数える
 名詞の例 တုံး၊ စဉ်းနှိုးတုံး၊ ဆပ်ပြာ၊ ရေခဲ၊ သစ်သားတုံး၊ အသားတုံး

NUM-တွဲ 房状のものを数える
 名詞の例 စပျစ်သီး၊ ကနစိုသီး၊ ကြက်မောက်သီး၊ ပေစာ <例外> မီးရထား

NUM-ခိုင် 花や果実の房を数える
 名詞の例 စပျစ်သီး၊ ငှက်ပျော(သီး)၊ အုန်းသီး၊ ပန်း

このテキストと主要なビルマ語辞書の品詞分類対照表 (1) 名詞類・動詞類ほか

辞書の多くは見出し形式の品詞情報を与えているが、どのような品詞を立てるか、ある形式がどの品詞に属するかについては、少なからず異同が見られる。そもそも、ほとんどの辞書が品詞の設定基準を明示していない。(そう言えばこのテキストも明確な基準までは示していなかった...)

このテキストと主要なビルマ語辞典が立てる品詞(およびその下位分類)間の対応を示す。各辞書の全項目に当たったわけではないので、遺漏のある可能性なきにしもあらず、であるが、ご了解いただきたい。なお、[]内の数字はこのテキストが立てる品詞・下位類が扱われる課を表す。

このテキスト	緬漢詞典 (1990)	MED (1993)	大野 (2000)	このテキスト	緬漢詞典	MED	大野
普通名詞	န	n	名(疑代)	主動詞			
指示名詞 [3]	နဝ	pron	指代(疑代)	状態動詞 [1]	က/နဝ	v/adj	動/形
人称名詞	နဝ	pron	代(疑代)	動態動詞 [1]	က	v	動
数名詞 [5]	န	n	数	補助動詞 [19]	ကဝ	part	助動
数量名詞 [5]	န/နဝ/ ကဝ/နဝ	n/pron/ adv/adj	名/ 副	前補助動詞 [19]	ကဝ	adv	副
様態名詞 [12]	ကဝ/နဝ	adv/adj	副(疑副)/形	間投詞	အ	int	感
局所名詞	န	n/ppm	名	擬音語	မသ	onomat	擬
格名詞 [15,16]	ဝ	ppm	助/接助				
類別名詞 [5, コラム]	မ	part	助数				(p.72 に続く.)
指示限定詞 [4]	နဝ	adj	指形(疑形)				

『緬漢詞典』の略号 က = 動詞 (ကြိယာ), ကဝ = 助動詞 (ကြိယာထောက်),
 ကဝ = 副詞 (ကြိယာဝိသေသန), မ = 類別詞 (မျိုးပြစကားလုံး),
 မသ = 擬音語 (မည်သံစွဲစကားလုံး), နဝ = 形容詞 (နာမဝိသေသန), န = 名詞 (နာမ်),
 နဝ = 代名詞 (နာမ်စာ), ဝ = 小辭 (ပစ္စည်း), အ = 間投詞 (အာမေဉ်တိ)

MED の略号 adj(ective) = 形容詞, adv(erb) = 副詞, int(erjection) = 間投詞, n(oun) = 名詞,
 onomatopoetic = 擬音語, part(icle) = 小辭, p(ost)p(ositional)m(arker) = 後置標識,
 pron(oun) = 代名詞, v(erb) = 動詞

大野 (2000) の略号 感 = 感嘆詞, 疑形 = 疑問形容詞, 疑代 = 疑問代名詞, 疑副 = 疑問副詞, 形 = 形容詞,
 指形 = 指示形容詞, 指代 = 指示代名詞, 助 = 助詞, 助数 = 助数詞, 助動 = 助動詞, 数 = 数詞,
 接助 = 接続助詞, 代 = 代名詞, 動 = 動詞, 副 = 副詞, 名 = 名詞

第 21 課 文脈中での働きを表す小辞

-မူ <对比> 「…は」

ယမန်နေ့က ကိုခင်မောင်ကြည် ကျောင်းသို့ လာသည်။ ကိုကျော်ဇင်မူ မလာနိုင်ပေ။
ကျွန်ုပ် သမိုင်းကို လေ့လာသည်။ နှမလေးမူ သင်္ချာ လေ့လာသည်။
မြန်မာပြည်၌မူ တောင်းဘိ ဝတ်သော သူ မများသေးပါ။

မန္တလေးသို့ ရောက်သော် လားရှိုးလေး၌ ညစာ စားမည်။ ပုဂံသို့ ရောက်သော်မူ
မည်သည့်ဆိုင်၌ စားမည်နည်း။

ထိုသူနှင့် လိုက်လျှင်မူ လမ်း မမှားနိုင်။

ဘာသာ ပြန်ရုံနှင့် အလုပ်ပြီးပြီဟူမူ မထင်ပါနှင့်။

-ကား <对比・取り立て> 「…は」

တနင်္လာနေ့တွင် စက်ရုံသို့ သွားမည်။ အင်္ဂါနေ့တွင်ကား တက္ကသိုလ်သို့ သွားမည်။
ထိုသူကား စံပြလုပ်သား ဖြစ်သည်။

စစ်ကိုင်းတောင်ပေါ်၌ကား ဘုန်းတော်ကြီးကျောင်း များစွာ ရှိပါသည်။

ပေးကား ပေး၏။ လက်မခံ။

ကျွန်မ မင်းကွတ်သီးကို ကြိုက်သည်။ ဆီးသီးကိုမူကား မကြိုက်ပါ။

-လည်း 「…も」

ဤဆိုင်၌ မြန်မာမဂ္ဂဇင်းလည်း ရောင်းသည်။ ဗွီဒီယိုခွေလည်း ငှား၍ ရသည်။

စာအုပ်ဆိုင်သည် ပန်းဆိုးတန်းလမ်း၌ များသည်။ ရွှေဘုံသာလမ်း၌လည်း
အနည်းအပါး ရှိပါသည်။

သင်လည်း ကျိုက်ထီးရိုးဘုရားကို သွားဖူးမည်ဟု ရည်ရွယ်ထားသလော။

မိုးရွာလျှင်လည်း ကျွန်တော် လာမည်။

သူတို့ လုံးဝ မမှန်ဟုလည်း မဆိုနိုင်ပါ။

မုန့်လည်း ဝယ်ခဲ့သည်။ ကော်ဖီလည်း ဖျော်ထားသည်။

ပေးလည်း ပေးသည်။ ယူလည်း ယူသည်။

A-လည်းကောင်း B-လည်းကောင်း 「A も, B も」

ရှမ်းပြည်နယ်၌လည်းကောင်း၊ ကရင်ပြည်နယ်၌လည်းကောင်း လက်ဖက် ထွက်ပါ
သည်။

မြန်မာလူမျိုးများသည် မွန်အက္ခရာကိုလည်းကောင်း၊ ထိုင်းလူမျိုးများသည် ခမာအက္ခရာကိုလည်းကောင်း လက်ခံသည်။

-ရော 「…も」

ဗမာသူငယ်ချင်းတစ်ယောက် ကြက်သွန် မစားတတ်ပါဟု ကြားဖူးသည်။ ချင်းရော စားတတ်ပါသလော။

ကျွန်ုပ် ဈေးသွားမည်။ သင်ရော သွားမည်လော။

— ကျွန်မရော သွားမည်။ ကျွန်မမူ မသွားပါ။

ယခု ကျွန်တော် ညစာ စားမည်။ သင်ရော (စားမည်လော)။

ငှက်ပျောသီးရော သင်္ဘောသီးရော ယူလိုက်သည်။

cf. တောင်ကြီး ရောက်လျှင်ရော မည်သည် လုပ်မည်နည်း။

-သာ(လျှင်) <排他> 「…だけ」; <最低限度> 「…だけは」

သူ့ကိုသာ ဤအကြောင်း မပြောလိုပါ။

သူ့အား ဤအကြောင်းကိုသာ မပြောလိုပါ။

ကိုစိုးဝင်းထံ၌သာ မော်တော်ကား ရှိသည်။

မိမိတို့ပညာအစွမ်းဖြင့် ကြံ့၍သာ ဤပြဿနာကို ဖြေရှင်းကြည့်ပါ။

မြန်မာပလ္လောသမက အနောက်တိုင်းပလ္လောကိုလည်း မှုတ်တတ်သည်။

အောက်တွင်ဖော်ပြထားသည်ကား သတင်းအတိုကောက်မျှသာ ဖြစ်သည်။

ပိတောက်ပန်းသည် တစ်နှစ်တွင် တစ်ကြိမ်သာလျှင် ပွင့်ပါသည်။

-ပင် <伝達の重点>

ငါပင် အမတ်ကြီးနှင့် စကားပြောမည်ပြုငြားသော်လည်း သင်တို့ကား တားမြစ်သည်။

ခဲလုံးဖြင့် လျင်မြန်စွာပင် ပစ်သော်လည်း ထိုငှက်ကို မမှန်ပါ။

ထိုအခန်း၏ တံခါးကို အမြဲ ဖွင့်လျက်ပင် ထား၏။

ဤနိုင်ငံသည် အတန်အသင့် တိုးတက်သော စက်မှုနိုင်ငံတစ်နိုင်ငံပင် ဖြစ်သည်။

-ပင်လျှင် -ပင်と同じ働きに加え, 「…さえ (も)」 「…でも」

ထိုဆေးကို သောက်သော် ခဏ၌ပင်လျှင် မည်သို့သောခေါင်းကိုက်ရောဂါမဆို ပျောက်သွားမည်။

ဤနွေရာသီ၌ ဟိုကိုင်ဒိုးကျွန်း၌ပင်လျှင် လေအေးစက်ကို မသုံးပဲ မနေနိုင်။

-မျှ (否定の動詞と共に) 「…さえ」

မည်သည်မျှ မရှိပါ။

ဘယ်သို့မျှ မသွားနှင့်။

မည်သည့်အလုပ်မျှ မလုပ်သလော။

မည်သူမျှ အစပ် မကြိုက်ပါ။

တစ်ယောက်မျှ မလာ။

တစ်ပြားမျှ မပါခဲ့မိ။

အနည်းငယ်မျှ မတတ်။

အင်္ဂလိပ်စကား ကောင်းစွာ မပြောတတ်သောကြောင့် ထိုအင်္ဂလိပ်ပညာရှင်၏ မေးခွန်းကို နားလည်ခြင်းမျှ မပြုနိုင်။

コラム 類別名詞 (14)

NUM-စုံ セットの数进行数える

名詞の例 သင်္ကန်း၊ စွယ်စုံကျမ်း၊ တူ၊ ခြေစွပ်

NUM-ရုံ 対进行数える

名詞の例 ဖိနပ်၊ လက်ကောက်

NUM-ဖက်(ဘက်) 対の片方进行数える

名詞の例 လက်၊ ခြေ၊ နား၊ ပခုံး၊ ပါး၊ ဖနောင့်၊ ဖိနပ်

NUM-ရှဉ်း すきを引く家畜の対进行数える

名詞の例 နွား၊ ကျွဲ

このテキストと主要なビルマ語辞書の品詞分類対照表 (2) 小辞類・接辞類など

このテキスト	緬漢詞典 MED	大野	このテキスト	緬漢詞典 MED	大野
格小辞 [2]	○	ppm	格助	語調を表す小辞 [22,23]	○ part 終助/助
動詞文を作る小辞 [1]	○	ppm/part	終助	願望表明文の種類を表す小辞 [22]	○ ppm 助動
名詞化節を作る小辞 [6]	○	part	助	文脈中での働きを表す小辞 [21]	○ part 副助
名詞修飾節を作る小辞 [6]	○	part	助	引用を表す小辞 [6]	○ part 助
従属節を作る小辞 [6,8,9]	∪	conj/part	接助	前接辞 [1,12]	○ part 頭
動詞を補助する小辞 [20]	∪/ကဝ	part	助動	複合名詞句を作る名詞要素 [10,11,13,14]	○ part 尾
				複合動詞の後要素 [18]	ကဝ part 助動/動

『緬漢詞典』の略号 ကဝ = 助動詞 (ကြိယာထောက်), ∪ = 小辞 (ပစ္စည်း), ∪ = 接続詞 (သမ္ပန္န)
 MED の略号 conj(unction) = 接続詞, part(icle) = 小辞, p(ost)p(ositional)m(arker) = 後置標識
 大野 (2000) の略号 格助 = 格助詞, 終助 = 終助詞, 助 = 助詞, 助動 = 助動詞, 接助 = 接続助詞,
 頭 = 接頭辞, 動 = 動詞, 尾 = 接尾辞, 副助 = 副助詞

第 22 課 文末の表現

願望表明文の種類を表す小辞

-ဝ (肯定) /-နှင့် (否定) によって形成される命令文は、聞き手に対して動作を行うことを要求する文であり、その主語は聞き手である。

သင် ရေနှေးကြမ်း သောက်ပါ။
 သင်တို့ ပိုက်ဆံကို အလကား မဖြုန်းကြပါနှင့်။

聞き手主語要求文 (命令文) 以外に、勧誘文・話し手主語要求文・第 3 者主語要求文および祈願文も -ဝ/-နှင့် によって形成される。これらに共通する点は、話し手が何らかの願望を表明しているという点である。ゆえにこれらをまとめて「願望表明文」と呼ぶことにする。

聞き手主語以外の願望表明文は、その種類を表す小辞を -ဝ/-နှင့် と組み合わせて作られる。

V-ပါရစေ <話し手主語要求文> (話し手が動作を行うことを認めてくれるよう要求) 「…させてください」

ကျွန်တော် တစ်ခု ပြောပါရစေ။
 သမီးတို့ အဝတ် လျှော်ပါရစေ။
 ဤသို့ ဦးနှောက်ခြောက်စေသော ပြဿနာကို မဖြေပါရစေနှင့်။

※日本語と異なり「私 (たち)」が主語であることに注意。次の文は文法的に誤り。

× ကျွန်တော့အား/ကို တစ်ခု ပြောပါရစေ။

V-ပါစေ

(1) <第 3 者主語要求文> (第 3 者が動作を行うことを認めてくれるよう要求) 「…させてやってください」

သူ လေယာဉ်ပျံဖြင့် ဇာတိသို့ ပြန်ပါစေ။
 မောင်ဘ ပြောလိုလျှင် ပြောပါစေ။
 ဤမိန်းကလေး တစ်ယောက်သာ သီချင်း မဆိုပါစေနှင့်။
 နေပါစေ။

※-ပါရစေ と全く同じ理由により、次の文は文法的に誤り。

× သူ့အား/ကို လေယာဉ်ပျံဖြင့် ဇာတိသို့ ပြန်ပါစေ။

(2) <祈願文> 「…でありますように」

ကျန်းမာပါစေ။ ချမ်းသာပါစေ။

နောက်တစ်ခေါက် မြန်မာပြည်သို့ ပြန်ရောက်ပါစေ။

သစ္စာဖောက်သော် မြွေ ကိုက်၍ သေရပါစေ။

ဤသို့ မဟုတ်ပါစေနှင့်။

ငရဲ မကျပါစေနှင့်။

အရှင်မင်းကြီး အကျွန်ုပ်လည်း သေထိုက်မှ သေပါရစေ၊ အရှင်မင်းကြီးလည်း နောင်တတစ်ဖန် မဖြစ်ပါစေလင့်။

V-စို့၊ V-ရအောင် <勧誘文> 「…しよう」 (いわば「話し手+聞き手主語要求文」)

ကျိုက်ထီးရိုးဘုရားကို သွားဖူးကြစို့။

ကျွန်တော်တို့ ဤနေရာ၌ အနားယူ(ကြ)ရအောင်။

ရှင်နှင့် ကျွန်မ ရုပ်မြင်သံကြား မကြည့်ဘဲ နေကြစို့။

လျှို့ဝှက်ခြင်း မပြုဘဲ နေ(ကြ)ရအောင်။

※否定の-နှင့်と共に用いるのは、口語的。

語調を表す小辞：動詞文を作る小辞 (-သည်၊-၏၊-မည်၊-နှင့်など) より前に現れるもの
-ပါ <丁寧な語調> ※これまで多数の例に表れているので、例は省略。

-ပေ 「確かに…」 「まことに…」

သူတို့အားလုံး လိုက်လာကြပေကုန်၏။

သူ ပြောသည်မှာ မမှန်ပေ။

-လေ <詠嘆> (すでに起こってしまった出来事に関して使われることが多い)

ပုရပိုက်တစ်ဆူ ယူခဲ့အံ့ဟု ဝန်ခံကတိပြုကြလေ၏။

ဤကဲ့သို့ အမှုကို ပြုကျင့်မည် မကြံလေနှင့်။

-ဘိ (主として状態動詞と共に) <感嘆>

အဘယ်ကြောင့် ဤသို့ ရက်စက်ဘိသနည်း။

ကောင်းပါဘိ။ ကောင်းပါဘိ။

-ချေ၊ -လတ် < “強められた語調” >

※いずれも少しずつ異なる語調を表す形式であると考えられるが，どれがどういう語調を表すのか明確に述べるのが困難であるため，不本意ではあるが< “強められた語調” >として一括する。

ဆရာထံသို့ သွားမေးကြချေ။

ကျွန်မ လုံးဝ မသိချေ။

ကင်မရွန်းနိုင်ငံမှ ဘောလုံးအသင်း ဤရွာသို့ လာလတ်၏။

cf. ဖြစ်ဆဲ၊ ဖြစ်ပြီး၊ ဖြစ်လတ္တံ့ ကာလသုံးပါး

-လိမ့် < 話し手の確信 > 「たぶん」 (-မည်と共に) ※-လေ と-အံ့ の縮約. 疑問語疑問文の場合でも，「動詞の表す出来事は起こるだろう」という話し手の確信を表す. 主語が話し手自身の場合には，通常用いない。

ယနေ့ည နှင်း ကျပါလိမ့်မည်။

ထိုသူကား ယာဂုကို မည်သူ့ထံသို့ ပို့ဆောင်လိမ့်မည်နည်း။

コラム 類別名詞 (15)

NUM-ရပ် 項目化されたものを数える

名詞の例 ပညာ၊ စကား၊ မင်္ဂလာ၊ ပြဿနာ

NUM-ရက် 日を数える

名詞の例 နေ့

NUM-ကွက် 土地の区画を数える

名詞の例 ကိုင်း၊ လယ်ခင်း၊ ခွဲ၊ မြေ

NUM-ထပ် 層を数える

名詞の例 အုတ် <注意> အိမ်

NUM-မျိုး 種類を数える

第 23 課 文末の表現 (続き)

語調を表す小辞：文の最後尾に現れるもの

-တည်း < 断定 > 「…である」

အရှင်မင်းကြီး၏ အိပ်မက်တော်သည် မင်္ဂလာရှိသော အိပ်မက်တည်း။
 သူတို့ ပြုသော အမှု ဟူသည် မပြီးသော အမှု မရှိ၊ ပြီးသည်သာတည်း။
 အမိအဖတို့ကို ပြုစုလုပ်ကျွေးခြင်းကား ရှေးပညာရှိတို့၏ အလေ့အကျင့်ပေတည်း။
 သောကြာနေ့တွင် မွေးသောကြောင့် “သောင်းထွဋ်” ဟု အမည်တွင်ထားသတည်း။

-ကော < 感嘆・驚嘆 >

ရထား လာပြီကော။
 မိုးချုပ်သွားပြီကော။
 တော်တော် ချမ်းလာပြီကော။
 (၈)-နာရီ ခွဲပြီကော။
 မတွေ့ရသည်မှာ (၃)-နှစ် ရှိပြီကော။
 အခု ပြောပါပြီကော။

-လော့ (願望表明文と共に) < 促し >

ဤသေတ္တာများကို ဆောင်ယူခဲ့လော့။
 ဆီးသီးကို ဆွတ်ယူသုံးဆောင်တော်မူပါလော့။
 ထိုပုဂ္ဂိုလ်ကို လာကြည့်ကြကုန်လော့။
 သည်းခံပါဦးလော့။

その他の文末形式

V-ရော

< ある状況の中にいきなり割って入る出来事 >

ပွဲ ကောင်းနေစဉ် မိုး ရွာပါလေရော။
 လုံချည် လဲနေစဉ်တွင် ဧည့်သည်များ ရောက်လာပါလေရော။

< 時間的・因果的にただちに続いて起こる出来事 >

သူ ၁၄-နှစ်သားအရွယ် ရောက်သော် သူ့အစ်မ သေပြန်ပါလေရော။
 ထိုလိုက်သည်နှင့် ကွဲသွားရော။
 မည်သည့်နည်းဖြင့် သွားရသည် ဖြစ်စေ ရောက်လျှင် ပြီးရော။

-ပါလိမ့် (疑問語と共に) <自問>

ဤပုဂ္ဂိုလ် မည်သူပါလိမ့်။

မည်သည့်အချိန်တွင် ရန်ကုန်တက္ကသိုလ်၌ သင်ခွင့် ရနိုင်ပါလိမ့်။

-လှချည်(က)လား (動詞文で) <驚き・感嘆>

သင်္ကြန်ပွဲ မဏ္ဍပ်၏ ပတ်ဝန်းကျင်၌ လူ များလှချည်ကလား။

ထိုကလေး ပျောက်သွားလှချည်လား။

-ပါ(က)လား (動詞文・名詞文いずれとも) <驚き・意外性>

ခုနစ်ဆယ့်ငါးကျပ်တန်ငွေစက္ကူပါလား။ မည်သည့်အရပ်၌ တွေ့လာခဲ့သနည်း။

အလွန်ပင် သနားစရာကောင်းပါကလား။

လုံးဝ မအိပ်နိုင်ပါကလား။

※より古い形として、-ပါတကားという形式もある。

V1-လေ V2-လေ 「V1 すればするほど V2 だ」

အရှေ့တောင်အာရှယဉ်ကျေးမှုကို သိကျွမ်းလေ စိတ်ဝင်စားလေ ဖြစ်ပါသည်။

သူသည် မည်သည့်အရာမဆို ဈေးပေါလေ ကောင်းလေဟု ထင်မှတ်လေ့ ရှိသည်။

コラム 類別名詞 (16)

NUM-ပူး 箱を数える

名詞の例 ပူး၊ ကွန်ပါပူး၊ ငါးသေတ္တာ

NUM-ခွက် 湯のみ・コップ・杯などを数える

名詞の例 ရေခွက်၊ ဖန်ခွက်

名詞と同形の類別名詞が用いられる例

-ဆိုင်၊ -အိမ်၊ -မြို့၊ -နိုင်ငံ၊ -နေရာ၊ -ဆောင်၊ -ကျွန်း၊ ဘူတာ(ရုံ)၊ မှတ်တိုင်

付録 A 辞書の配列 (及びビルマ語 → ○○語辞書紹介)

「ビルマ語 → ○○語」辞書の配列には、大きく分けて3種類ある。細かい違いまで入れると、完全に同一な配列を持つ辞書を探すほうが難しい。「おいおい…」と思ったのは、筆者だけではないはずだ。)ここでは、発音重視型・綴字型・転写型の3種類それぞれについて、代表例を挙げて説明する。

1. 発音重視型配列

おおむね現代語の発音を基本に置き、母音と声調の組み合わせが規則正しく並ぶよう考えられた配列である。(ただし、末子音記号を伴って表記される音節は、必ずしも発音ごとにまとめられない。)

例として、大野徹『ビルマ (ミャンマー) 語辞典』, 大学書林, 2000. の配列をみる。この辞書は、見出し語 46300 語を収録した、これまでで最大の緬日辞典である。ただし用例は少ない。

I. 子音で始まる音節

(a) 見出し語は、まず子音字によって次のように配列される。

က ခ ဂ ဃ ငါ စ ဆ ဇ ဈ ညါ ဋ ဌ ဍ ဎ ဏါ တ ထ ဒ ဓ နါ ပ ဖ ဖ
ဘ ဝါ ယ ရ လ ဝ သ ဝ ဌ

(b) 同じ子音字を持つ語の配列は、介子音表記の有無・種類によって次のように決定される。

∅ (介子音表記を持たない) ချ ဝိ ဝိ ဝါ ဝါ ဝါ ဝါ ဝါ ဝါ ဝါ ဝါ ဝါ

(c) 介子音表記まで同じ語の配列は、母音・末子音・声調表記の組み合わせによって決定される。

○ က ဝး၊ ဝိ ဝိ ဝိး၊ ဝု ဝု ဝုး၊ ဝေ ဝေ ဝေး၊ ဝဲ ဝယ် ဝဲ၊ ဝေ့ ဝော် ဝော၊
ဝိ ဝိ ဝိး ။ ဝက် ဝောက် ဝိက်၊ ဝင့် ဝင် ဝင်း၊ ဝောင့် … ဝိုင် …၊ ဝိ၊ ဝည့်
…၊ ဝှ့် …၊ ဝတ် ဝိတ် ဝုတ်၊ ဝန် … ဝိန် … ဝုန် …၊ ဝပ် ဝိပ် ဝုပ်၊ ဝံ ဝံ
ဝမ်း ဝိမ်း ဝမ် ဝိမ်း ဝုံ ဝုံ ဝုံး

(◌ံは◌မ်と補いあう末子音表記として扱われている)

II. 母音で始まる音節

အ အာ အား၊ အိ ဣ အီ ဤ အီး၊ အု ဥ အူ ညိ အူး ညီး၊ အေ ညွှ် အေ ဇ
အေး၊ အဲ့ အယ် အဲ၊ အေ့ အော် ဪ အော ဩ၊ အို အို အိုး …

(以下、末子音表記を伴って表記される音節の配列は I. に準ずる。)

※ ここにない綴字に関しては、上表中の発音を同じくする綴字の箇所に配列。ゆえに、発音を知らなければ辞書が引けない場合がある。これが、この配列の最大の欠点である。

類似の配列を持つ辞書には、次のものがある。

- <日本語> 原田正春・大野徹(編)『ビルマ語辞典』, 日本ビルマ文化協会 1979, 再版 1990.
大野(2000)が出版される以前は, 日本人のビルマ語学習者のほとんどはこの辞書を使っていた。現在在庫切れで入荷未定とのこと。
- <ビルマ語> ဦးဝန် (U Wun)၊ တက္ကသိုလ်မြန်မာအဘိဓာန် (*University Burmese Dictionary*), 5 pts., Government Printing and Stationery, Rangoon, 1952–64.
この配列による, おそらく最初の辞書。未完。ちなみに, U Wun 氏は大阪外国語大学客員教授として来日し, 原田・大野辞典の執筆に協力された。
- <漢語> 陳孺性『模範緬華大辭典』, 1962。リプリント版: 東洋文庫, 1970, 1980。
語数約 30000。動植物名や歴史的語彙の豊富さから, 未だに有用。東洋文庫ウェブサイトの販売本一覧に掲載されているところを見ると, 未だ新本が入手可能らしい(3150円)。
- <フランス語> Denise Bernot, *Dictionnaire Birman-Français, fascicules 1-15*, SELAF, Paris, 1978–92.
Bernot 女史はフランスのみならずヨーロッパ大陸随一のビルマ語研究の大家。ほとんど独力で, 十数年をかけて全 15 巻の辞書を完結させたことは, まさに偉業と言うにふさわしい。
- <ロシア語> G.F.Minina and U Kyaw Zaw, *Birmansko-Russkij Slovar', Russkij Jazyk, Moscow*, 1976。
語数約 29000。原題は当然キリル文字で書かれている。ここでは便宜的にローマ字で転写した。

2. 綴字型配列

ビルマ語の文字要素(字および記号)だけによって順序が決定される配列。字・記号の形をきちんと同定できれば, たとえ発音がわからなくても辞書が引ける。ビルマ語のように綴字の不規則発音が多い言語では, これは何よりの利点である。逆に, 辞書に載っている単語を見つけられなかったとしたら, 使用者の方が悪いということになる。

例として, *Myanmar-English Dictionary*. edited by Myanmar Language Commission, Ministry of Education, Union of Myanmar, 1993. の配列をみる。

<ビルマ語> ミャンマー連邦教育省ビルマ語委員会 (編), မြန်မာအဘိဓာန် (『ビルマ語辞典』), 1991.

5巻本の『ビルマ語辞典』(簡約版)をさらに簡潔にした1巻本。収録語数18000。文語体偏重の5巻本には採録されていなかった、口語体の小辞などもきちんと採録。用例は5巻本より少ないが、現代語の用例が主である。また5巻本になかった借用語の語源情報はなかなか有用である。一方、5巻本で全見出し語につけられていたビルマ文字による発音表記は、綴字通り発音しない語にしかつけられていない。なお、この辞典と前述の『ビルマ語辞典』(簡約版)の配列方式は全ての見出し語を対等に扱い綴字順に配列するというものであり、*Myanmar-English Dictionary* (1993)とは異なる。

<ビルマ語> ミャンマー連邦教育省ビルマ語委員会 (編), ခရီးဆောင် မြန်မာအဘိဓာန် (『携帯用ビルマ語辞典』), 1999.

上記『ビルマ語辞典』(1991)を再編集し、より小さい判型にしたもの。収録語数は『ビルマ語辞典』(1991)と大差ない。本辞書の配列方式は*Myanmar-English Dictionary* (1993)に準じ、もととなった『ビルマ語辞典』(1991)とは異なる。

<英語> Nance Cunningham & Aung Soe Min, *Burmese-English English-Burmese Dictionary*, Paiboon Publishing, Bangkok, 2009.

英語話者向けに編纂されたコンパクトな語彙集(辞書というには語義解説が簡略にすぎ)。英緬・緬英(綴字配列)・緬英(音声転写アルファベット配列)の3つの合冊であり判型も小さいので(分厚いけど)、手元において語義を確認するには好適と思われるが、これ1冊で事足りる種類のものではない。

<漢語> 北京大学東方語言文学系緬甸語教研室 (編), 『緬漢詞典』. 商務印書館, 北京, 1990. 収録語数約60000と、現時点で最も多くの語彙を採録し、ビルマ国内の辞書よりも充実した内容を誇る、ビルマ語読解のいわば「最終兵器」。ただし、ローマ字による発音表記の方式には、やや問題あり。もし書店で見かけたら、たとえ漢語ができなくとも、買っておく価値は十分すぎるほどある。

3. 転写型配列

最も早期に考案された、ビルマ語辞書の配列方式。上座部仏教經典の言語であるパーリ語をローマ字で表記するための転写システムにならって、ビルマ文字をローマ字転写し、そのローマ字転写表記を一定の規則に従って配列したものと推測される。

例として、本格的なビルマ語の辞書としては最も古くからある **Adniram Judson, *Judson's Burmese-English Dictionary Unabridged Centenary Edition* (revised and enlarged by Robert C. Stevenson and Rev. F.H. Eveleth, Baptist Board of Publications) Rangoon, 1953.** の配列をみる。

全ての字・記号に対して、次項の表のような転写を与え、表中の順序に従って見出し語を配列する。

転写	対応する字・記号	転写	対応する字・記号	転写	対応する字・記号
a	အ၊ ဝ (母音記号なし)	ch	ဆ	b	ဗ၊ ဝိ
ā	အာ၊ ဝာ	j	ဇ၊ ဝိ	bh	ဘ
i	အိ၊ အို၊ ဝိ	jh	ဈ	m	မ၊ ဝိ
ī	အိ၊ ဩ၊ ဝိ	ññ	ည၊ ဝိ	y	ယ၊ ဝိ
u	အု၊ ဝု၊ ဝူ	ñ	ည၊ ဝိ	r	ရ၊ ဝိ
ū	အူ၊ ဝူ၊ ဝူး	t	တ၊ ဝိ	l	လ၊ ဝိ
e	အေ၊ ဧ၊ ဝေ	th	ဌ၊ ဝိ	w	ဝ၊ ဝိ
ai	အဲ၊ ဝဲ	d	ဒ၊ ဝိ	(yw	ယူ၊ ဝိ)
o	အေ၊ ဝေ	dh	ဋ၊ ဝိ	(rw	ရူ၊ ဝိ)
o'	အေ၊ ဝေ	ṅ	ဏ၊ ဝိ	s	သ၊ ဝိ
ui	အို၊ ဝိ	t	တ၊ ဝိ	h	ဟ၊ ဝိ
k	က၊ ဝိ	th	ထ	L	လ၊ ဝိ
kh	ခ၊ ဝိ	d	ဒ၊ ဝိ	m	မ၊ ဝိ
g	ဂ၊ ဝိ	dh	ဋ၊ ဝိ	'	၊ ဝိ
gh	ဃ၊ ဝိ	n	န၊ ဝိ	"	၊ ဝိ
ñ	ဉ၊ ဝိ	p	ပ၊ ဝိ		
c	စ၊ ဝိ	ph	ဖ		

例えば、**စ** で始まる語の配列は概略次の通り。(ただし、各単純語項目の後に続く複合語は省略した。)

စ (ca) → **စက** (cak) → **စကာ** (cakā) → **စက္က** (cakkū) → **စက္က** (cakra) → **စင်** (cañ) → **စင်** (cañkram) → **စစ်** (cac) → **စည်** (caññ') → **စည်** (caññ') → **စည်** (caññ'') → **စနစ်** (canac) → **စနေ** (cane) → **စန္ဒ** (canda) → **စန်** (can') → **စပ်** (cap) → **စပ်** (capay) → **စပါ** (capā) → **စပ်** (capyac) → **စမုတ်** (camut) …

ビルマ語の音節構造を全く考慮しない配列のしかたであり、引きにくいことこの上ない。

類似の配列を持つ辞典としては、つぎのものがある。

<英語> **John Alexander Stewart. et al., A Burmese-English Dictionary, 6 pts., Luzac & Co.Ltd., London, 1940–81.**

語義解説の後に古典からの用例が出典箇所つきでずらりと並ぶのは、イギリスの伝統的辞典編纂のスタイルを承けてのこと。このスタイルは後に教育省ビルマ語委員会編纂の5巻本に踏襲される。6分冊、aの終わりまで達したところで編纂が中止された。完結していたらビルマ版 OED と称されたであろうに、残念なことである。ただ、aから始まる転写型配列を採用したおかげで、接頭辞 a-によって動詞から作られた派生名詞が途中で途切れることなく網羅されているのは、不幸中の幸い。

<ドイツ語> **Annemarie Esche, Wörterbuch burmesisch-deutsch. Verlag Enzyklop.die Leipzig, Leipzig, 1976.**

収録語数約 17000.

使用機会の多い辞書のローマ字発音表記対照表

・MED = *Myanmar-English Dictionary* ・斜体字部分は、注意を要する表記。

緬漢詞典 (1990)	MED (1993)	大野 (2000)	この テキスト	緬漢詞典 (1990)	MED (1993)	大野 (2000)	この テキスト
☆頭子音				hl-	hl-	ɬ-	hl-
k-	k-	k-	k-	w-	w-	w-	w-
kh-	kh-	k'-	k ^h -	hw-	hw-	hw-	hw-
g-	g-	g-	g-	<i>th-</i>	<i>th-</i>	t̪-	t̪-
ng-	ng-	ŋ-	ŋ-	<i>dh-</i>	<i>dh-</i>	d̪-	d̪-
hng-	hng-	ŋ̃-	hŋ-	h-	h-	h-	h-
ky-	<i>kj-</i>	tʃ-	c-	★介子音			
khy-	ch-	tʃ-	c ^h -	-y-	-j-	-j-	-y-
gy-	<i>gj-</i>	dʒ-	j-	-w-	-w-	-w-	-w-
ny-	<i>nj-</i>	ɲ-	ɲ-	☆母音			
hny-	<i>hnj-</i>	ɲ̃-	hɲ-	-a	-a	-a	-a
s-	s-	s-	s-	-i	-i	-i	-i
hs-	<i>hs-</i>	s'-	s ^h -	-u	-u	-u	-u
z-	z-	z-	z-	-ei	-ei	-e	-e
t-	t-	t-	t-	-e	-e	-ɛ	-ɛ
ht-	<i>ht-</i>	t'-	t ^h -	-aw	-o	-ɔ	-ɔ
d-	d-	d-	d-	-o	-ou	-o	-o
n-	n-	n-	n-	-au	-au	-au	-au
hn-	hn-	ɲ̃-	hn-	-ai	-ai	-ai	-ai
p-	p-	p-	p-	-ei	-ei	-ei	-ei
ph-	<i>hp-</i>	p'-	p ^h -	-ou	-ou	-ou	-ou
			f-	★末子音・声調			
b-	b-	b-	b-	-n	-n	-n	-N
m-	m-	m-	m-	-t	-'	-ʔ	-ʔ
hm-	hm-	ɱ̃-	hm-	-'	-.	-.	-.
y-	<i>j-</i>	<i>j-</i>	y-	記号なし	記号なし	記号なし	-_
r-	r-	(r-)	r-	-:	-:	-:	-:
sh-	<i>sh-</i>	ʃ-	ʃ-	-	- <u>a</u>	-ə	-ə
l-	l-	l-	l-	(母音表記なし)			

例えば ၵၵၵၵ の発音は、このテキストでは [s^häya_] となるが、ここに挙げた各辞書では、緬漢詞典 [hs-ya]；MED [shaja]；大野 (2000) [s'əja] のようになる。

付録 B アーリア系借用語の綴字

東南アジアのマレー、チャム、クメール、タイ、ピュー、モン、ビルマなどの民族は、インドの文化の影響を受け、ヒンドゥー教や仏教を受容したという経歴を持つ。文化や宗教の媒体として、プラークリット語やサンスクリット語などのインド・アーリア系言語を表記するために作られたブラーフミー文字の末裔である南インドのグランタ文字が、西暦4-6世紀の間にこの地域に伝播した。グランタ文字を受け入れた諸民族は、アーリア系言語を記すという本来の目的の他に、現地語を書き記す目的にもこのグランタ文字を「流用」し、それぞれの現地語に適応するように文字のしくみを改変したが、アーリア系言語の表記法には変更を加えなかった（タイ文字およびその影響を受けたタム文字を除く）。インド文化の受容の証として、ビルマ語はパーリ語（プラークリットの一方言）から、クメール語やタイ語はサンスクリット語から大量の借用語彙を受け入れたが、これらも基本的にアーリア系言語本来の表記法で記される。パーリ語借用語彙の綴字に、ビルマ語本来の語の綴字と異なる部分が見られるのはこのためである。

1. 結合文字

パーリ語およびパーリからの借用語の表記には、「結合文字」と呼ばれる複数の子音字を結合させた表記が普通に見られる。ビルマ文字の結合文字は、一部の例外を除いて、上字と下字を重ねたものとみなすことが可能である。（結合文字のビルマ語名称 ပါဠိဆင့် 「(パーリ語の) 文章+重ねる」は、この表記法の由来と構成法を物語る。）

ခန္ဓာ ဝတ္ထု မင်္ဂလာ ဥက္ကဋ္ဌ မနုဿ ပညာ

もとのパーリ語形をローマ字表記すると、それぞれ次のようになる。

khan-dha vat-thu mañ-ga-la uk-kaṭ-ṭha manus-sa pañ-ñā

これらの結合文字はパーリ語の子音連続を表すためのものだったことがわかる。

※ 実をいうと、ビルマ語本来の語に見られる ခါ၊ ဝါ၊ ဝါ၊ ဝါ も結合文字の下字である。

※ ဝှ はビルマ語本来の語では /p/ を表す単独の子音字として扱われるが、パーリ語およびパーリ語由来の借用語では *ñ+ñ* の連続を表す結合文字として扱われる。

結合文字のリスト

結合される子音字の組み合わせには制限があり、ほとんど子音字表の同じ行に現れる字同士に限られる。（以下の各表で、「 $\begin{matrix} \text{上} \\ \text{下} \end{matrix}$ 」はそれぞれ子音連続の上字\下字という意味。また、-はないことがあらかじめ予測できる組み合わせ、×はあってもよさそうなのに実際にはない組み合わせ。）

■ 字母表 1 行目 (က の行)

上/下	-က	-ခ	-ဂ	-ဃ	-င
က-	က္ခ	က္ခ	-	-	-
ဂ-	-	-	ဂဂ	ဃဃ	-
င-	ကိ	ခိ	ဂိ	ဃိ	×

※ ဝိ^၆ は形こそ例外的だが、他の上字と全く変らない働きをする。

■ 字母表 2 行目 (စ の行)

上/下	-စ	-ဆ	-ဇ	-ဈ	-ည
စ-	စစ	ဆဆ	-	-	-
ဇ-	-	-	ဇဇ	ဈဈ	-
ည-	ည	ဆ	ည	ည	ည

※ パーリ語およびパーリ語由来の借用語では、[ɲ] を表す子音字は ည^၆ であり、ည^၆ は ည+ည^၆ の結合文字として扱われる。

■ 字母表 3 行目 (ငှ の行)

上/下	-ငှ	-ငှ	-ညှ	-ဃှ	-ဇှ
ငှ-	ငှငှ	ငှငှ	-	-	-
ညှ-	-	-	ညှညှ	ဃှဃှ	-
ဇှ-	ဇှ	ဇှ	ညှ	×	ဇှ

※ 例外的綴字が最も多い。ただし頻度は高くない。

■ 字母表 4 行目 (တ の行)

上/下	-တ	-တ	-ဒ	-ဓ	-န
တ-	တတ	တတ	-	-	-
ဒ-	-	-	ဒဒ	ဓဓ	-
န-	တိ	တိ	ဒိ	ဓိ	နိ

■ 字母表 5 行目 (ဝ の行)

上/下	-ဝ	-ဝ	-ဝ	-ဘ	-မ
ဝ-	ဝဝ	ဝဝ	-	-	-
ဝ-	-	-	ဝဝ	ဘဘ	-
မ-	ဝ	ဝ	ဝ	ဘ	မ

■ 上記以外の同じ子音字の連続

ယ-ယ	လ-လ	သ-သ
→ ယယ	→ လလ	→ သသ

■ ဝိ^၆ の例外 (異なる行の子音字に付く)

င-ဘ	င-လ	င-သ
→ ဘိ	→ လိ	→ သိ

2. 特殊な末子音表記

講読テキスト၄၂ သိရီ နှင့် သိရီ で扱ったように、ビルマ語に借用されたパーリ語語彙のあるものは、語末母音 (多くは-a) や語末音節の脱落を被った。

Pali. စိတ္တ *citta* → Bur. စိတ် 「心」 Pali. ပါဠိ *pāṭha* → Bur. ပါဠိ 「(パーリ語の) 文章」

この脱落の結果、ビルマ語本来の語で用いられる以外の末子音表記が生じることとなった。

3. 特殊な末子音表記の読音

パーリ語借用語に固有の末子音表記も、ビルマ語本来の語に見られる末子音表記と同様、当該音節の母音表記の読音に影響を与える。

■末子音表記（+母音記号+声調記号）の読音

母音記号	◌(なし)၊	◌ာ	◌ိ	◌ု	◌ေ	◌ော	◌ိ	◌ိ	◌ိ
末子音表記なし	-a		-i	-u	-e	-o	-o	-wa	-wo
末子音表記あり	いろいろ		-ei	-ou	-i	-au	-ai	-w + いろいろ	-wai
◌်၊◌်၊◌်၊◌်	-ε?		-ei?	-ou?		-au?	-ai?	-wε?	(-wai?)
◌်(◌ိ)	-in		-ein	-oun		-aun	-ain	-win	(-wain)
◌်၊◌်၊◌်၊◌်	-i?		-ei?	-ou?		(-u?/-o)			
◌်	-in		-ein	-oun					
◌်	-i/ε/e								
◌်၊◌်၊◌်၊◌်	-a?		-ei?	-ou?	-i?	(-u?)		-u?	
◌်၊◌်၊◌်၊◌်									
◌်	-an		-ein	-oun	(-in)			-un	
◌်၊◌်၊◌်၊◌်	-a?		-ei?	-ou?				-u?	
◌်	-an		-ein	-oun				-un/-wan	
◌်	-an		-ein	-oun				-un	
◌်	-ε		-i	-u	-e	-o	-o	-wε	
◌်	-an		-ein		-e		-o		
◌်၊◌်	-an		-ein	-oun			-o		
◌်	-o								
◌်	-a?		-ei?	-ou?	(-i?/e)				
◌်			-ein				-o		

※ 太字はビルマ語本来の語にも見られる綴字・読音。()は比較的稀な(どれも多くはないが、その中でもさらに稀な)もの。

■読み方の練習

မုခ်	မင်	လေယာဉ်ပျံ	သောင်းထွဋ်	ဥာဏ်
ဇာတ်	ခေတ်	ပုဒ်	အဘိဓာန်	လာဘ်
နာမ်	မဟာထေရ်	ဗိုလ်ချုပ်	သီဟိုဠ်	ဂြိုဟ်

4. 結合文字の読音

結合文字の読音には、一定の規則がある。それは、上字を前の音節の末子音表記として、下字をその音節の頭子音字として読むというものである。

■規則通りに結合文字を「分解」すれば正しい発音を得られる例：

ဝတ္ထု → (ဝတ် + ထု) [wuʔtʰu.]

စက္ကူ → (စက် + ကူ) [sɛʔku_]

■正しい発音に少し足りない例：「分解」の結果、前の音節が/-ʔ/で終わらないことがわかると、少し厄介である。なぜなら、綴字のしくみ上、前の音節の声調が綴字に反映されないからである。

ခန္ဓာ → (ခန် + ရာ) [kʰaɴ_da_]

ပညာ → (ပဉ် + ဉာ) [pyiɴ_ɲa_]

きちんと統計を取ったわけではないが、前の音節は（弱化しない限り）ここに挙げた例のように低平調で発音されることが多い。ただし、高平調で発音されることもあるので油断はできない。

ပိန္နဲ → (ပိန်(း) + နဲ) [pein:ne:]

ဟင်္သာ → (ဟင်(း) + သာ) [hin:ða_]

下降調で発音されることはほとんどない。ともかく、単語ごとに覚えるしか方法はない。

※ 結合文字を「分解」することで出来る母音表記＋末子音表記の組み合わせの読音は、前掲の「末子音表記（＋母音記号＋声調記号）の読音」を見ること。

※ また、後の音節の頭子音が有声化したり、前の音節が弱化したり、さらにそれが引き金になって前の音節の頭子音が有声化したりすることも、ビルマ語本来の語の場合と同様起こり得る。

■読み方の練習

တက္ကသိုလ်
သင်္ကြန်
ပဉ္စမ
သတ္တမ
စန္ဒာ
ကမ္ဘာ

ဂုဏ်သိက္ခာ
ပစ္စည်း
ပုည
စတုတ္ထ
ဣန္ဒြေ
ဓမ္မသတ်

ဒုက္ခ
ကိစ္စ
ဥက္ကဋ္ဌ
သဒ္ဒာ
သိပ္ပံ
ဥယျာဉ်

ပုဂ္ဂိုလ်
ပုစ္ဆာ
မဏ္ဍပ်
ဗုဒ္ဓ
အဓိပ္ပာယ်
ပလ္လင်

မင်္ဂလာ
ဝိဇ္ဇာ
ပုဏ္ဏား
အန္တရာယ်
နိဗ္ဗာန်
ပြဿနာ

5. 頭子音・介子音の特殊例

パーリ語・サンスクリットや英語からの借用語では、**ရ**が[r-]と読まれる場合がある。

ပရိသတ် သရဗူ စာရိတ္တ ရေဒီယို ဒရိုက်တာ

また、これに対応する介子音記号 **ꣳ** についても、**ꣳ**が[kər-]と読まれたり、普通は見られない **ꣳ-** **ꣳ-** **ꣳ-**が見られるなどの特例がある。

ꣳယာ [kəri.ya_] ꣳဂံ [təri.gan_] ဒြပ် [dəraʔ]

介子音記号 **ꣳ** についても、普通は見られない **ꣳ-** **ꣳ-** **ꣳ-**などの組み合わせが見られる。

တျာချင်း [təya_jin:] နျူကလိယ [nəyu_kəli.ya.]

ビルマ文字を用いてパーリ語テキストを転写する方式

伝統的なローマ字転写で書かれたパーリ語テキストをビルマ文字で転写するための方式を示す。ビルマ文字で書かれたパーリ語テキストをローマ字転写に「逆変換」するのに用いることもできる。

子音字・子音下字・末子音記号

<i>k</i>	က	<i>kh</i>	ခ	<i>g</i>	ဂ	<i>gh</i>	ဃ	<i>ñ</i>	င*1
	ကံ		ခံ		ဂံ		ဃံ		
<i>c</i>	စ	<i>ch</i>	ဆ	<i>j</i>	ဇ	<i>jh</i>	ဈ	<i>ñ</i>	ည
	စံ		ဆံ		ဇံ		ဈံ		*2
<i>t</i>	တ	<i>th</i>	ထ	<i>d</i>	ဒ	<i>dh</i>	ဗ	<i>ṇ</i>	ဏ
	*3		*3		*3		*3		ဏံ
<i>t</i>	တ	<i>th</i>	ထ	<i>d</i>	ဒ	<i>dh</i>	ဓ	<i>n</i>	န
	တံ		ထံ		ဒံ		ဓံ		နံ
<i>p</i>	ပ	<i>ph</i>	ဖ	<i>b</i>	ဗ	<i>bh</i>	ဘ	<i>m</i>	မ
	ပံ		ဖံ		ဗံ		ဘံ		မံ
<i>y</i>	ယ	<i>r</i>	ရ	<i>l</i>	လ	<i>v</i>	ဝ	<i>s</i>	သ
	ယံ		ရံ		လံ		ဝံ		*4
<i>h</i>	ဟ	<i>ḷ</i>	ဣ					<i>m̐</i>	ံ
	ဟံ		ဣံ						

付録 C 文字・記号の名称

子音字

ကကြီး /ka.ji:/ 大きい	ခ ခွေး /k ^h a.gwe:/ 巻いた?	ဂ ငယ် /ga.ŋe_/ 小さい	ဃကြီး /ga.ji:/ 大きい	င /ŋa./
စ လုံး /sa.loun:/ 丸い	ဆလိမ် /s ^h a.lein_/ ねじれた	ဇ ကွဲ /za.gwe:/ 割れた	ဈ မြင်းဆွဲ /za.myin:zwe:/ 馬をひく	ညကြီး၊ ဥကလေး /ŋa.ji:/ /ŋa.gəle:/ 大きい 小さな
ဋ သန်လျင်းချိတ် /ta.təlin:jei?/ 輿を吊るす鉤	ဌ ဝမ်းဘဲ /t ^h a.wun:bɛ:/ 家鴨	ဍ ရင်ကောက် /da.yin_gau?/ 胸が曲がった	ဎ ရေမှုတ် /da.ye_hmou?/ 柄杓	ဏကြီး /na.ji:/ 大きい
တဝမ်းပူ /ta.wun:bu_/ 腹がふくれた	ထဆင်ထူး /t ^h a.s ^h in_du:/ 象の足枷	ဒ ထွေး /da.dwe:/ 二重の	ဏ အောက်ခြိုက် /da.ʔauʔc ^h ai?/ 下の欠けた	န ငယ် /na.ŋe_/ 小さい
ပ စောက် /pa.zau?/ 深い	ဖ ဦးထုပ် /p ^h a.ʔouʔt ^h ou?/ 帽子	ဗ ထက်ခြိုက် /ba.ləc ^h ai?/ 上の欠けた	ဘ ကုန်း /ba.goun:/ 猫背の	မ /ma./
ယပက်လက် /ya.pɛʔlɛ?/ 仰向け	ရ ကောက် /ya.gau?/ 曲った	လ /la./	ဝ /wa./	
သ /ta./	ဟ /ha./	ဋကြီး /la.ji:/ 大きい	အ /ʔa./	

子音下字

ပျ ယပင့် /ya.pin:/ 持ち上げる	ပျ ရ ရစ် /ya.yi?/ 取り囲む	ဝ ဆွဲ /wa.s ^h we:/ ぶら下げる	ဝ ဟထိုး /ha.t ^h o:/ 書き入れる
-----------------------------------	---------------------------------	--	---

索引

凡例 N: 名詞, NUM: 数名詞, V: 動詞, [C]: 口語体, [L]: 文語体

N-က , 14
 N-က N [C], 19
 -ကတော့ [C], 29
 V-ကတည်း , 40
 V-ကာ [L], 27, 41
 -ကား [L], 25, 29, 70
 ကဲ့(သို့) [L], 51
 -ကော [C], 29
 -ကော , 76
 N-ကို , 13
 NUM-ကောင် , 42
 V-ကောင်း- , 59
 V-ကုန် , 66, 67
 NUM-ကိုး , 64
 V-ကြ , 65-67
 NUM-ကြောင်း , 58
 V-ကြောင်း , 49
 V-ကြည့်- , 61
 NUM-ကွက် , 75
 NUM-ကွင်း , 60

V-ခါ , 46
 NUM-ခု , 37
 V-ခဲ့ , 65
 V-ခိုက် , 39
 NUM-ခိုင် , 69
 V-ခိုင်း- , 60
 -ခန့် [L], 30
 ခပ်သိမ်း [L], 22
 ခပ်-VV, 44
 V-ခဲ- , 60
 -ချေ , 10, 75
 V-ချက် , 46
 V-ချင်- [C], 30
 VV-ချင်း [C], 27
 NUM-ချောင်း , 58
 V-ချိန် , 46
 NUM-ချပ် , 55
 V-ခြင်း , 49
 NUM-ခွေ , 60
 NUM-ခွက် , 77
 NUM-ခွန်း , 53

-ငှာ [L], 52

စ-V- , 63
 V-(စ)ဖွယ် [L], 45
 V-(စ)ဘွယ် [L], 45
 V-စရာ , 30, 45
 NUM-စီး , 48
 V-စေကာ(မှု) [L], 26, 41
 V-စို့ , 74
 စိုးစဉ်း [L], 22
 NUM-စင်း , 48
 NUM-စောင် , 53
 V-စဉ် [L], 27, 38
 စဉ်းငယ် [L], 22
 NUM-စည်း , 64
 V-စမ်း , 67
 NUM-စုံ , 72
 V-စေ- , 60
 V-စွာ [L], 30, 44

N-ဆီက [C], 14
 NUM-ဆူ , 39
 ဆိုတာ [C], 26
 ဆိုတဲ့ [C], 26
 ဆိုသော [L], 26
 ဆိုသည် [L], 26
 ဆက်-V- , 63

တခုခု , 22
 တချို့ [C], 22
 တခြား [C], 22
 တစုံတခု [L], 22
 တစုံတယောက် [L], 22
 တစုံတရာ [L], 22
 တယောက်ယောက် , 22
 NတV, 44
 တVV, 44
 V-တာ [C], 25
 V-တာကြောင့် [C], 25
 V-တာနဲ့ [C], 25
 V-တဲ့ [C], 23
 -တော့ [C], 29
 V-တော့ [C], 26

V-တော့ , 68
 N-တို့ , 19
 -တောင် [C], 29
 တိုင်အောင် , 54
 V-တိုင်း , 40
 -တည်း [L], 29, 76
 N-တည်း [L], 10
 V-တတ်- , 59
 V-တုန်း , 27
 V-တယ် [C], 9
 NUM-တုံး , 69
 N-တွေ [C], 19
 NUM-တွဲ , 69
 N-တွင် , 13

N-ထံမှ [L], 14
 V-ထား- , 61
 ထို N [L], 19
 ထို(ကဲ့)သို့ [L], 18
 ထို(ကဲ့)သို့(သော) N [L], 20
 ထိုနေရာ [L], 16
 ထိုမျှ(လောက်) [L], 17
 ထိုမျှ(လောက်)(သော) N [L], 20
 ထိုသူ [L], 16
 ထိုအရာ [L], 16
 ထက် , 54
 NUM-ထည် , 50
 NUM-ထပ် , 75
 ထပ်-V- , 63
 NUM-ထုပ် , 64

ဒါ [C], 16
 ဒီ [C], 16
 ဒီ N [C], 19
 ဒီလူ [C], 16
 ဒီလို [C], 18
 ဒီလို N [C], 20
 ဒီလောက် [C], 17
 ဒီလောက် N [C], 20
 ဒီဟာ [C], 16

N-နဲ့ [C], 14
 N-နဲ့ N [C], 19

N-နှင့် တပြိုင်တည်း [L], 36
 N-နှင့် တပြိုင်နက် [L], 36
 V-နောက် , 39
 -နည်း [L], 17
 V-နည်း , 47
 N နည်းနည်း [C], 22
 V-နေ- , 62
 N-နှင့် [L], 14
 N-နှင့် N [L], 19
 V-နှင့် , 66

-ပါ , 10, 74
 V-(ပါ)က [L], 26, 34
 -ပါ(က)လား , 29, 77
 V-ပါစေ , 73
 -ပါတကား [L], 29
 V-ပါရစေ , 73
 -ပါလိမ့် , 77
 NUM-ပါး , 39
 -ပေ , 10, 74
 V-ပေမယ့် [C], 26
 V-ပေး- , 62
 -ပဲ [C], 29
 -ပင် [L], 29, 71
 NUM-ပင် , 45
 -ပင်လျှင် [L], 29, 71
 NUM-ပုဒ် , 53
 NUM-ပိုဒ် , 53
 V-ပုံ , 47
 ပို-V- , 63
 NUM-ပြား , 55
 V-ပြီး , 26, 35
 V-ပြီး- , 62
 V-ပြန် , 67
 ပြန်-V- , 63
 NUM-ပွင့် , 45

V-ဖူး(-ဘူး) , 65
 V-ဖို့ , 25, 49
 NUM-ဖက်(ဘက်) , 72
 N-ဖြင့် [L], 14
 ဖြစ်- , 10, 56, 57
 V-ဖြစ် , 66
 A ဖြစ်စေ B ဖြစ်စေ [L], 29, 57
 A ဖြစ်ဖြစ် B ဖြစ်ဖြစ် [C], 29

V-ဖွယ်(ရာ) [L], 30
 NUM-ဗူး , 77

ဘာ [C], 17
 ဘာ N [C], 19
 -ဘိ [L], 74
 ဘယ် [C], 17
 ဘယ် N [C], 19
 ဘယ်လို [C], 18
 ဘယ်လို N [C], 20
 ဘယ်လောက် [C], 17
 N ဘယ်လောက် [C], 20
 ဘယ်သူ [C], 17
 ဘယ်ဟာ [C], 17
 V-ဘွယ်(ရာ) [L], 30

မ- , 10, 61
 V-မလား [C], 11
 V-မလဲ [C], 17
 မV-စ [L], 10
 NမV, 44
 မV-ခင် , 27
 မVတV, 44
 မV-နဲ့ [C], 12, 73
 မV-နှင့် [L], 12
 မV-ဝဲ , 41
 မV-ဘူး [C], 10
 မV-ဘဲ , 41
 မV-မချင်း , 40
 မVမဖြစ် , 44
 မV1 မV2, 44
 မV-မိ [L], 27, 3939
 V-မိ , 65
 -မူ [L], 70
 V-မူ [L], 26, 33
 မည်(ကဲ့)သို့ [L], 18
 မည်(ကဲ့)သို့(သော) N [L], 20
 V-မည်နည်း [L], 17
 မည်မျှ(လောက်) [L], 17
 မည်မျှ(လောက်)(သော) N [L], 20
 V-မည်လား [L], 11
 V-မည်လော [L], 11
 မည်သူ [L], 17
 မည်သော [L], 26
 မည်သည် (引用) [L], 26

မည်သည် (疑問) [L], 17
 မည်သည့် N [L], 19
 မည်သည့် အခါ(၌) [L], 19
 V-မည့် [L], 23
 V-မည် (文) [L], 9
 V-မည် (名詞化節) [L], 25
 V-မယ် [C], 9
 V-မယ့် [C], 23
 N-များ [L], 19
 N များစွာ [L], 22
 များစွာသော N [L], 22
 N များများ [C], 22
 NUM-မျိုး , 75
 မျှ [L], 51
 -မျှ (မV-) [L], 29, 7272
 N-မှ [L], 14
 V-မှ , 34
 N-မှ စ- [L], 36
 N-မှ နေ(၍) [L], 36
 -မှ (မV-) [C], 29
 N-မှ လွဲ- [L], 36
 N-မှ N [L], 19
 V-မှာ [C], 25
 V-မှု , 46
 N-မှာ (位置) , 13
 N-မှာ (主語) , 14

NUM-ယောက် , 34
 ယင်း [L], 16
 ယင်း N [L], 19
 ယင်း(ကဲ့)သို့ [L], 18
 ယင်းနေရာ [L], 16
 ယင်းလူ [L], 16
 V-ယောင် , 47

V-ရ , 66
 V-ရကား [L], 26, 35
 V-ရအောင် , 74
 NUM-ရံ , 72
 V-ရာ , 38
 V-ရေး , 46
 N-ရဲ့ N [C], 19
 -ရော [L], 29, 71
 V-ရော , 76
 NUM-ရက် , 75
 V-ရက် , 66

V-ရက်နဲ့ [C], 27
 V-ရင် [C], 26
 V-ရင်း [C], 27, 41
 V-ရန် [L], 25, 49-5050
 NUM-ရပ် , 75
 V-ရုံ , 49
 V-ရဲ- , 60
 V-ရှာ , 67
 NUM-ရှဉ်း , 72

လာ-V- , 64
 N-လား [C], 11
 V-လု , 66
 -လေ , 74
 V1-လေ V2-လေ , 77
 -လဲ [C], 17, 29
 A-လဲ B-လဲ [C], 29
 N-လော [L], 11
 -လော့ [L], 76
 -လို့ [C], 26
 V-လို့ [C], 26
 NUM-လက် , 50
 -လောက် , 30
 V-လောက်- , 60
 V-လိုက် , 65
 -လည်း [L], 29, 70
 A-လည်း B-လည်း [L], 29
 -လတ် [L], 75
 -လိမ့် , 75
 V-လာ- , 62
 NUM-လုံး , 37
 V-လို- [L], 30
 V-လျက် [L], 27, 41
 V-လျက်နှင့် [L], 27
 V-လျှင် [L], 26, 33
 V-လျှင် V-ခြင်း [L], 27, 40
 V-လွန်း , 67
 V-လွယ်- , 59
 NUM-လွှာ , 55
 V-လှ , 67

V-ဝံ- 60

V-သ , 11, 51
 V-သနည်း [L], 17
 V-သဖြင့် , 25

-သဖွယ် [L], 51
 V-သလား [C], 11
 V-သလဲ [C], 17
 V-သလော [L], 11
 -သာ [C], 29
 -သာ(လျှင်) [L], 29, 7171
 V-သူ , 48
 V-သေး , 68
 -သော [L], 20
 V-သော [L], 23
 V-သောကြောင့် [L], 25
 V-သော် [L], 26, 33
 V-သော်လည်း [L], 26, 33
 N-သို့ [L], 13
 N-သည် [L], 14
 V-သည်တွင် [L], 25
 V-သည်နှင့် [L], 25
 သည် N [L], 19
 V-သည့် [L], 23
 V-သည် (文) [L], 9
 V-သည် (名詞化節) [L], 25
 V-သာ- , 59
 V-သွား- , 62
 သွား-V- , 64

N-ဟာ [C], 14
 -ဟု [L], 26
 ဟူသော [L], 26
 ဟူသည် [L], 26
 ဟူ၍ [L], 26
 ဟို [C], 16
 ဟို N [C], 19
 ဟိုလူ [C], 16
 ဟိုဟာ [C], 16
 ဟုတ်- , 10
 V-ဟန် , 47

N အကုန်လုံး , 22
 အကုန်လုံးသော N [L], 22
 အချို့ [L], 22
 အခြား(သော) [L], 22
 အစား , 54
 အတိုင်း , 52
 -အတွက် , 52
 အတွင်း , 13
 အထိ , 54

အနေ , 55
 N အနည်းငယ် [L], 22
 အနည်းငယ်သော N [L], 22
 N အနည်းစု [C], 22
 အပြင် , 54
 အဖို့ , 52
 အဖြစ် , 55
 အဘယ် [L], 17
 အဘယ် N [L], 19
 အဘယ်(ကဲ့)သို့ [L], 18
 အဘယ်(ကဲ့)သို့(သော) N [L], 20
 အဘယ်ကြောင့် [L], 17
 အဘယ်မျှ(လောက်) [L], 17
 အဘယ်မျှ(လောက်)(သော) N [L], 20
 အဘယ်သူ [L], 17
 အဘယ်အရာ [L], 17
 N အများ [L], 22
 N အများကြီး [C], 22
 N အများစု [L], 22
 အများစုသော N [L], 22
 အများသော N [L], 22
 အမြောက်အမြား [L], 22
 အရ , 53
 အလိုက် , 53
 N အလုံး [L], 22
 N အလုံးစုံ [L], 22
 အလုံးစုံသော N [L], 22
 အလုံးသော N [L], 22
 အV, 43
 အVV, 43
 V-အံ့ [L], 9
 V-အံ့နည်း [L], 17
 V-အံ့လော [L], 11
 V-အံ့သော [L], 23
 V-အံ့သောငှာ [L], 25
 N-အား [L], 13
 V-အား- , 60
 အားဖြင့် , 55
 N အားလုံး , 22
 အားလုံးသော N [L], 22
 အဲဒါ [C], 16
 အဲဒီ [C], 16
 အဲဒီ N [C], 19
 အဲဒီလူ [C], 16

- အဲဒီလို [C], 18
 အဲဒီလို N [C], 20
 အဲဒီလောက် [C], 17
 အဲဒီလောက် N [C], 20
 အဲဒီဟာ [C], 16
 V-အောင် , 34
 NUM-အုပ် , 42

 ဤ [L], 16
 ဤ N [L], 19
 ဤ(ကဲ့)သို့ [L], 18
 ဤ(ကဲ့)သို့(သော) N [L], 20
 ဤနေရာ [L], 16
 ဤရှု(လောက်) [L], 17
 ဤရှု(လောက်)(သော) N [L], 20
 ဤသူ [L], 16
 ဤအရာ [L], 16

 NUM-ဦး , 34
 V-ဦး , 68

 N- N , 19
 N-ဦး [L], 13
 V-၍ [L], 26, 35, 61
 V-၍ ဆုံး- [L], 36
 V-၍ နိုင်- [L], 35
 V-၍ ငြိ- [L], 36
 V-၍ ဖြစ်- [L], 35
 V-၍ ရ- [L], 35
 ၎င်း [L], 16
 ၎င်း N [L], 19
 ၎င်း(ကဲ့)သို့ [L], 18
 ၎င်းနေရာ [L], 16
 V-၏ [L], 9
 V-၏လော [L], 11

 N-∅ (主語) , 14
 N-∅ (無生の対象) , 13
 V-∅ (命令) , 11, 73

 N+V イディオム動詞, 59
 VV (動詞の重複) , 43
 譲歩を表す—, 43

 引用, 26

 遠称, 16

 格, 13
 格小辞, 13, 38, 58
 位置の—, 18, 19
 対象の—, 19
 着点の—, 19

 格名詞, 51, 54, 58
 願望表明文, 12, 73
 —の種類を表す小辞, 73
 勧誘文, 74

 祈願文, 74
 疑問文, 12
 疑問語—, 17
 諾否—, 11
 疑問語句, 17
 近称, 16

 現実, 9
 現実性, 23, 25

 口語体, 6
 肯定, 9–11

 使役動詞, 60
 指示限定詞, 19
 指示名詞, 16
 従属節, 26, 58
 副詞的な—, 33
 —を作る小辞, 26, 33
 「従属節もどき」, 27, 38, 47, 58
 主語, 14
 照応, 16
 小辞, 5, 13
 格—, 13, 38, 58
 願望表明文の種類を表す—, 73
 語調を表す—, 74
 従属節を作る—, 26, 33
 動詞文を作る—, 9, 74
 動詞を補助する—, 65
 文脈中での働きを表す—, 70
 名詞化節を作る—, 25
 名詞修飾節を作る—, 23
 状態動詞, 9
 焦点後置文, 57
 情報授受文, 12

 数名詞, 22
 数量名詞, 22

 声調交替, 19
 接辞, 5
 前補助動詞, 63

 単純動詞, 59

 等位接続, 14, 20
 動詞
 N+V イディオム—, 59
 使役—, 60
 前補助—, 63
 状態—, 9
 単純—, 59
 動態—, 9
 複合—, 59
 補助—, 61
 —を補助する小辞, 65
 動詞文, 11
 最小の—, 9
 —を作る小辞, 9, 74
 動詞類, 5
 動詞連続, 61
 出来事の継起を表す—, 61
 動態動詞, 9

 人称名詞, 19

 派生名詞, 43
 出来事の—, 43
 ものの—, 43
 様態の—, 43

 非現実, 9
 否定, 11, 12

 複合, 38
 複合動詞, 59
 同義・類義の動詞からなる—, 59
 文法的な—, 59
 複合名詞, 38
 動詞を含む—, 46
 複合名詞句, 47, 58
 文語体, 6

 平叙文, 9, 10, 12

 補語, 13
 位置の—, 13
 起点の—, 14
 共同者の—, 14
 指示要素を含む—, 17
 対象の—, 13
 着点の—, 13
 程度の—, 17
 道具の—, 14
 比況の—, 18
 補助動詞, 61

 名詞
 格—, 51, 54, 58
 指示—, 17
 数—, 22
 数量—, 22
 人称—, 19
 派生—, 43
 複合—, 38
 類別—, 22, 34, 37, 39, 42, 45, 48, 50, 53, 55, 58, 60, 64, 69, 72, 75, 77
 名詞化節, 25, 58
 —を作る小辞, 25
 名詞限定句
 格小辞を含む—, 19
 名詞修飾句
 格小辞を含む—, 19
 程度の—, 20
 様態の—, 20
 名詞修飾節, 23, 38, 51, 58
 —を作る小辞, 23
 名詞の複数表示, 19
 「名詞文」, 10, 11
 名詞類, 5
 命令文, 11, 12, 73

 要求文
 聞き手主語—, 73
 第3者主語—, 73
 話し手主語—, 73

 類別名詞, 22, 34, 37, 39, 42, 45, 48, 50, 53, 55, 58, 60, 64, 69, 72, 75, 77

Grammar of Literary Burmese [Revised Version]
ILCAA Intensive Language Course 2012: Intermediate Burmese, Textbook 1

文語ビルマ語文法 [改訂版]
平成24年度言語研修 ビルマ語中級研修テキスト1

平成 24 年 7 月 30 日 発行

著者 澤田 英夫

発行 東京外国語大学
アジア・アフリカ言語文化研究所
〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-1
TEL. 042-330-5600

印刷 株式会社 インフォテック
〒206-0033 東京都多摩市落合 2-6-1
TEL. 042-311-3355

©澤田 英夫
ISBN 978-4-86337-116-3